



Roland

V-Drums

V31

DRUM SOUND MODULE

クイック・スタート

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

準備する	2
各部の名称とはたらき	2
トップ・パネル	2
サイド・パネル／フロント・パネル	4
ボトム・パネル	4
リア・パネル（接続する）	5
電源を入れる／切る	6
ハイハットの設定をする	7
奏法について	8
V31 の概要	10
ドラム・キットとインストゥルメント	10
インストゥルメント・エクスパンション	10
キット・バック	10
ラックとスロット	11
基本操作	12
演奏する	13
ドラム・キットを選ぶ	13
リストからドラム・キットを選ぶ	13
インストゥルメント・エクスパンション／キット・バックのドラム・キットを読み込む	13
グリックを鳴らす	14
コーチ・モードで練習する	15
フレーズに合わせて正確に叩く（PHRASE TRAINER）	15
ビートに合わせて正確に叩く（TIME CHECK）	15
身体でテンポを覚える（QUIET COUNT）	16
変化するテンポに合わせて叩く（AUTO UP/DOWN）	17
一定の強さで叩く（STROKE MONITOR）	18
強く速く叩く（BLAST BEAST）	18
曲に合わせて演奏する	19
スマートフォンの曲に合わせて演奏する	19
V31 のソングに合わせて演奏する	19
お気に入りのドラム・キットを登録する／呼び出す	21
演奏を録音する	21
オーディオ録音する（AUDIO REC）	21

ドラム・キットをカスタマイズする	23
ドラム・キットを簡単にエディットする（EZ EDIT）	23
インストゥルメントを選ぶ	23
チューニングをする	23
マフリング（ミュート）の設定をする	24
インストゥルメントやパッドの音量を調節する	24
オーディオ・ファイルを取り込む／鳴らす（USER SAMPLE）	24
オーディオ・ファイルを取り込む	24
ユーザー・サンプルをインストゥルメントに割り当てる／鳴らす	25
ドラム・キットの名前を変更する（KIT NAME）	25
設定する	26
トリガーの設定	26
パッドの種類を設定する	26
パッドの感度を個別に調整する	26
デジタル接続対応パッド（別売）の設定をする	27
インストゥルメント・エクスパンション／キット・バックの設定をする	28
データをバックアップする	28
SD カードを初期化する	28
SD カードにバックアップする（SAVE）	29
バックアップ・データを SD カードから読み込む（LOAD）	29
SD カードにドラム・キットをバックアップする（SAVE 1 KIT）	30
キット・バックアップ・データを SD カードから読み込む（LOAD 1 KIT）	30
V31 全体の設定をする（SYSTEM）	31
パソコンやスマートフォンと接続して使う	31
USB ドライバーの設定をする	32
パソコンでエディター・アプリ「V31 Editor」を使う	32
工場出荷時の設定に戻す	32
ドラム・キットを工場出荷時の設定に戻す	33
安全上のご注意	34
使用上のご注意	34

紙マニュアル

- クイック・スタート（本書）
基本的な使いかたを説明しています。
- Roland Cloud Connect セットアップ・ガイド
Roland Cloud への登録や接続のしかたについて説明しています。



Web マニュアルの入手方法

1. パソコンなどで下記の URL を入力します。
<https://www.roland.com/jp/manuals/>
2. 製品名「V31」を選んでください。



Web マニュアル（Web からダウンロード）

- リファレンス・マニュアル
本機のすべての機能について説明しています。
- Roland Cloud ご利用ガイド
Roland Cloud の活用方法についての詳細を説明しています。
- データ・リスト
本機のパラメーターや音色について解説しています。
- MIDI インプリメンテーション
MIDI メッセージの詳細資料です。

本機を正しくお使いいただくために、ご使用前に「安全上のご注意」と「使用上のご注意」（『安全上のご注意』チラシとクイック・スタート（P.34））をよくお読みください。お読みになったあとは、すぐに見られるところに保管しておいてください。

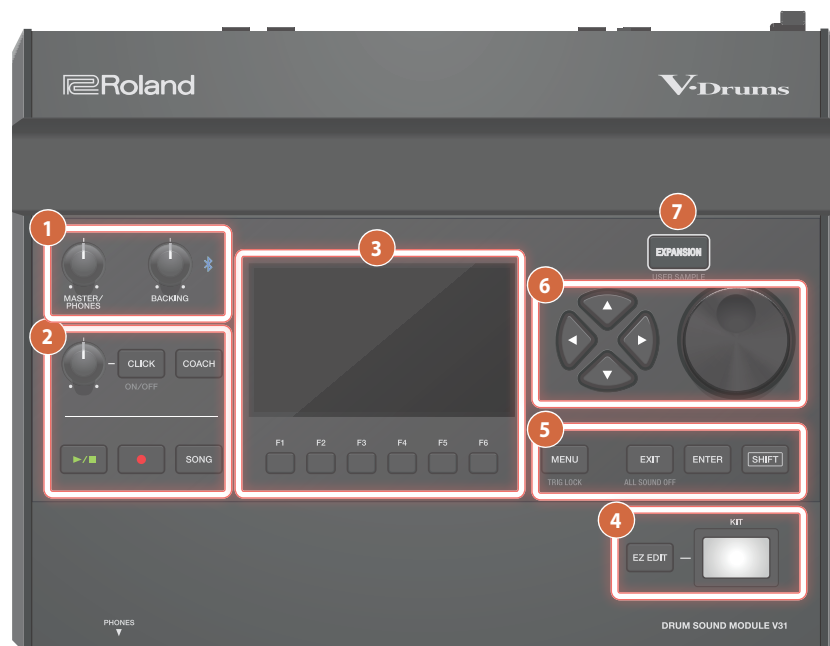
© 2025 Roland Corporation



準備する

各部の名称とはたらき

トップ・パネル



1

[MASTER/PHONES] つまみ

MASTER OUT 端子と PHONES 端子から出力される音量を調節します。

メモ

MASTER OUT 端子の出力音量を一定に固定することができません。詳しくは『リファレンス・マニュアル』(Web)をご覧ください。

[BACKING] つまみ

ソング (オーディオ・ファイル)、MIX IN (STEREO) 端子の入力音量、**Bluetooth®** オーディオの音量を調節します。

※ 内蔵ソングのドラム演奏音や、録音したドラムの演奏音には効きません。

※ (Bluetooth) インジケーター

Bluetooth 機能でペアリングが完了すると点灯します (P.19)。

2

[CLICK] つまみ

クリックの音量を調節します (P.14)。

[CLICK] ボタン

クリックを鳴らしたり、テンポやクリックの設定をしたりします。また、[SHIFT] ボタンを押しながら [CLICK] ボタンを押すと、クリックのオン/オフができます。

[COACH] ボタン

コーチ・モードでトレーニングをするときに押します (P.15)。スピードのコントロール能力や、精度、持久力を鍛えることができます。

[▶/■] ボタン

ソングや録音したデータを再生/停止します (P.19)。

[●] ボタン

録音モードに入ります (P.21)。

[SONG] ボタン

SONG 画面を表示します。ソングや録音したデータの再生や、ソングに関する設定をするときに押します (P.19)。

3

[F1] ~ [F6] ボタン (ファンクション・ボタン)

ディスプレイの表示によって機能が変わるボタンです。ディスプレイの下部に表示されている機能を設定します。

ディスプレイ

操作に応じて、いろいろな情報が表示されます。

4

[EZ EDIT] ボタン

EZ EDIT を使って、ドラム・キットを簡単にエディットすることができます (P.23)。

[KIT] ボタン

KIT 画面が表示されます (P.13)。

5

[MENU] ボタン

MENU 画面が表示されます。

また、[SHIFT] ボタンを押しながら [MENU] ボタンを押すと、パッドを叩いても、設定するパッドが切り替わらなくなります（トリガー・ロック）。フレーズを演奏しながら設定するときに便利です。

[EXIT] ボタン

一度押すと、1 つ上の階層の画面に戻ります。続けて何度か押すと、最終的に KIT 画面に戻ります。

また、[SHIFT] ボタンを押しながら [EXIT] ボタンを押すと、発音しているすべての音を止める（消音する）ことができます（ALL SOUND OFF (*1)）。多くのループ・フレーズを一度に停止させるときに便利です。

*1：エフェクトの残響音、ソング、クリックは停止しません。

[ENTER] ボタン

値の確定や操作を決定するときを押します。

[SHIFT] ボタン

他のボタンと組み合わせて使います。このボタンを押している間、他のボタンの機能が変わります。

6

[▼] [▲] [◀] [▶] ボタン (カーソル・ボタン)

カーソルを移動します。

ダイヤル

ドラム・キットや設定値を変更します。

また、[SHIFT] ボタンを押しながらダイヤルを回すと、値の変化量を大きくすることができます。

7

[EXPANSION] ボタン

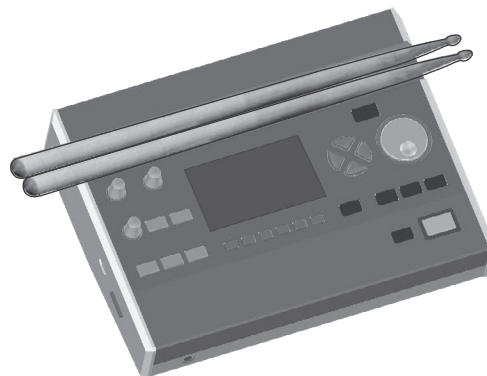
Roland Cloud から V31 にインストールしたインストゥルメント・エクスパンション（ドラム・キットとインストゥルメントのパッケージ）、キット・パック（ドラム・キットとカスタム・サンプルのパッケージ）を設定します（P.13）。

また、[SHIFT] ボタンを押しながら [EXPANSION] ボタンを押すと、ユーザー・サンプル機能（P.24）を使うことができます。

スティック・トレイにドラム・スティックを置く

トップ・パネルのスティック・トレイに、ドラム・スティックを置くことができます。

本機を操作するときにドラム・スティックを置くと便利です。



※ スティック・トレイにドラム・スティック以外のもの（スマートフォンやタブレットなど）を置かないでください。置いたものが落下する恐れがあります。

English

日本語

Deutsch

Français

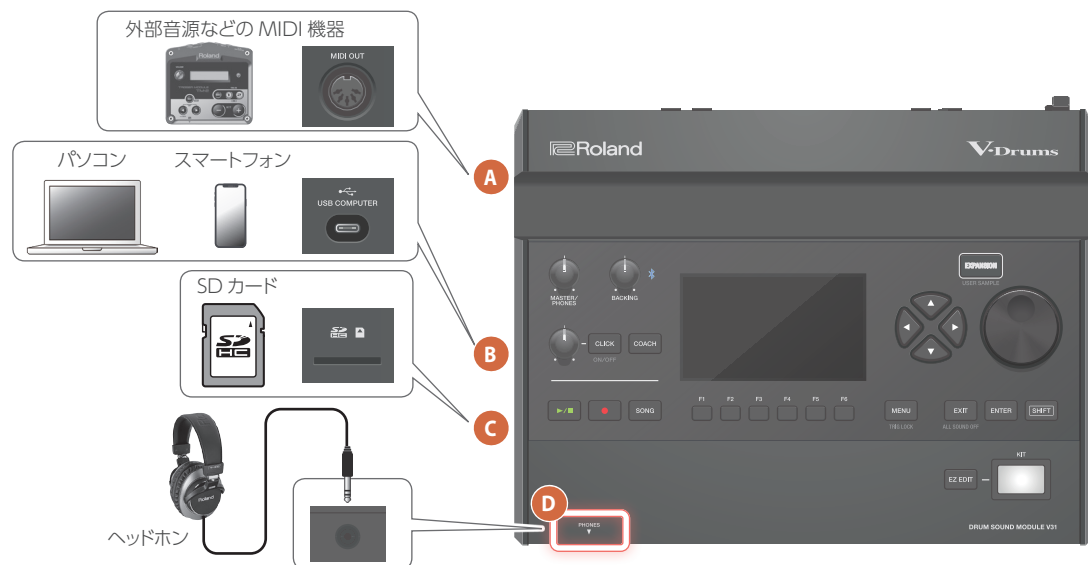
Italiano

Español

Português

Nederlands

サイド・パネル／フロント・パネル



A MIDI OUT 端子

外部音源などの MIDI 機器を接続します。

B USB COMPUTER 端子

V31 とパソコンやスマートフォンを USB ケーブルで接続します。DAW ソフトウェアを使って、V31 の演奏をオーディオや MIDI で録音したり、パソコンで再生した音を V31 で鳴らしたりすることができます (P.31)。

また、エディター・アプリ「V31 Editor」を使ってパソコンでドラム・キットをエディットできます (P.32)。

※ 充電専用の USB ケーブルは使用しないでください。データ通信ができません。

C SD カード・スロット

市販の SD カード (SDHC カード (32GB) まで対応) を挿入します。

SD カードには、ソングや V31 のデータを保存することができます。また、ユーザー・サンプルの取り込みや、録音したソングのエクスポートなどにも使います。

初めて SD カードを使うときは、本機で SD カードを初期化 (フォーマット) してください (P.28)。

※ 画面に「Processing...」と表示されている間は、絶対に電源を切ったり、SD カードを抜いたりしないでください。

※ メモリー・カードのメーカーや種類によっては、本機で正しく録音や再生ができないことがあります。

D PHONES 端子

ヘッドホン接続します。

ヘッドホン接続しても、アウトプットの各端子からは音が出力されます。

ボトム・パネル

スタンドに取り付ける

付属の音源マウンティング・プレートを使って、V31 をドラム・スタンドに取り付けます。

V31 の底面にあるネジを使って、図のように取り付けてください。

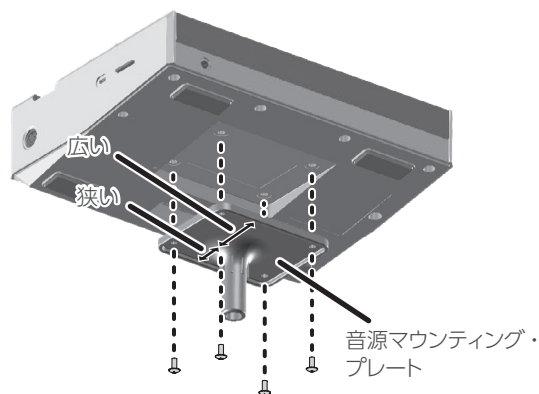
※ 取り付けには、ネジのサイズに合ったプラス・ドライバー (サイズ: #2) をご用意ください。

※ V31 の底面にあるネジ以外は使わないでください。故障の原因になります。

※ V31 の取り付けに、別売りのオール・パーパス・クランプ (APC シリーズ) は使用できません。

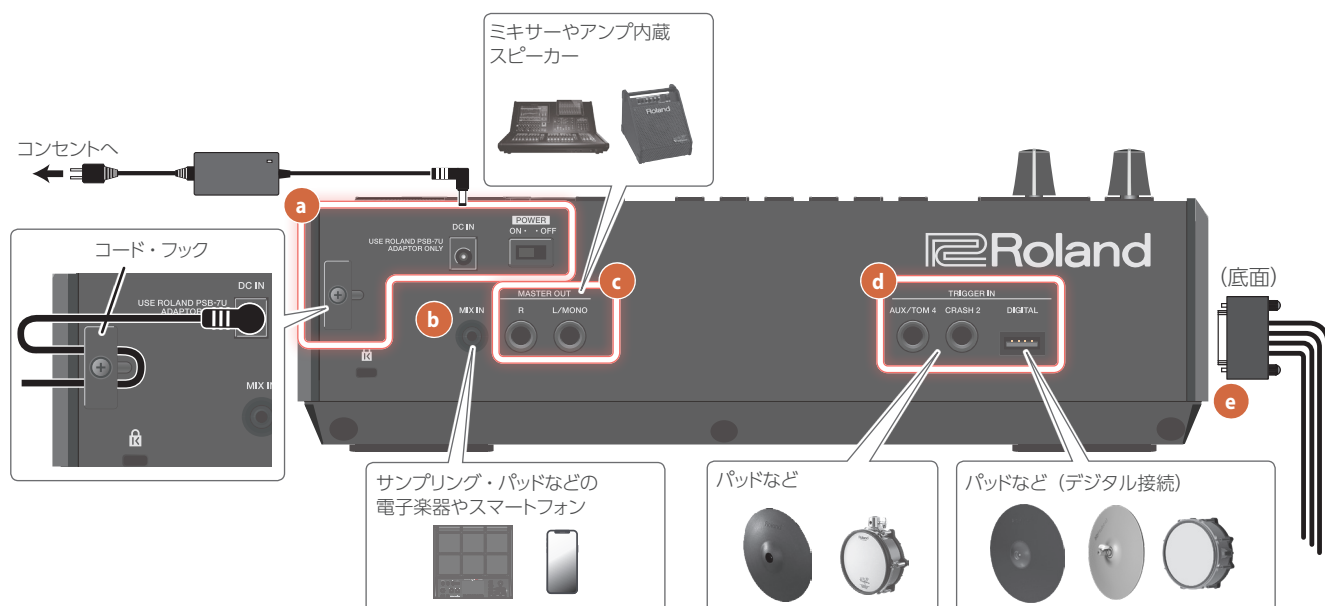
※ 本機を裏返すときは、破損を防ぐためボタンやつまみなどを保護してください。また、落下や転倒を引き起こさないよう取り扱いに注意してください。

※ 取り付けパイプ使用時は、可動部と本体の間に指をはさまないように注意してください。お子様のいる場所で使用する場合は、必ず大人のかたが監視／指導してください。



リア・パネル（接続する）

※ 他の機器と接続するときは、誤動作や故障を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞り、すべての機器の電源を切ってください。



a

[POWER] スイッチ

電源をオン／オフします。

DC IN 端子

付属の AC アダプターを接続します。

※ AC アダプターのコードは、図のようにコード・フックを使って固定してください。

b **MIX IN 端子**

サンプリング・パッドなどの電子楽器やスマートフォンなどに接続します。

c **MASTER OUT 端子**

ミキサーやアンプ内蔵スピーカーや録音機器などに接続します。

モノで出力したいときは、MASTER OUT 端子の L / MONO のみに接続してください。

d **TRIGGER IN 端子**

別売りのパッドを増設することができます。

AUX/TOM 4

パッドを増設するときに接続します。

タム用のパッドを増設するときは、この端子に接続します。

CRASH 2

クラッシュ・シンバル用のパッドを接続します。

DIGITAL

デジタル接続対応のパッド（PD-14DSX、CY-18DR、VH-14D など）を接続します。

また、別売りの DW^e DrumLink™ ハブを使って、ワイヤレスでパッドを接続することができます。詳しくは『リファレンス・マニュアル』（Web）をご覧ください。

e **TRIGGER INPUT 端子（底面）**

付属の専用接続ケーブルを取り付けて、パッドやペダルを接続します。パッドやペダルは別売りです。

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

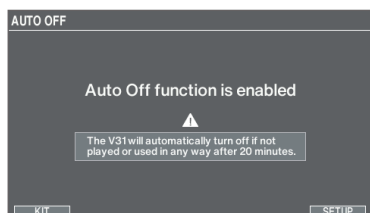
Nederlands

電源を入れる／切る

※ 電源を入れる／切るときは、音量を絞ってください。音量を絞っても電源を入れる／切るときに音がすることがありますが、故障ではありません。

電源を入れる

1. V31 と接続した機器の音量を最小にします。
2. V31 の [POWER] スイッチを「ON」にします。
電源を入れると、以下の画面が表示されます。



- ※ Auto Off 機能を「OFF」に設定していると、この画面は表示されません。
- ※ Auto Off 機能の設定を変更する場合は、[F6] (SETUP) ボタンを押します。詳しくは「一定時間が経つと自動で電源が切れるようにする (AUTO OFF)」(P.6) をご覧ください。

3. [KIT] ボタンを押して、KIT 画面に戻ります。
4. 接続した機器の電源を入れ、音量を調節します。

電源を切る

注意

V31 で変更した値は、電源を切るときにも保存されます。必ず [POWER] スイッチを「OFF」にして、電源を切るようにしてください。

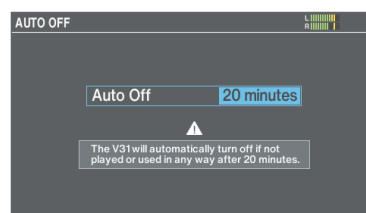
1. V31 と接続した機器の音量を最小にします。
2. 接続した機器の電源を切ります。
3. V31 の [POWER] スイッチを「OFF」にします。
「Please wait. Now saving...」と表示され、設定が保存されると電源が切れます。

一定時間が経つと自動で電源が切れるようにする (AUTO OFF)

本機は、演奏や操作をやめてから一定時間（初期値：20 分）が経過すると、省エネルギーのため自動的に電源が切れます。

- 自動的に電源が切れないようにするには、設定をオフにしてください。ただし設定をオフにすると、消費電力量の増加につながります。
- 自動的に切れた電源を再び入れるときは、本機の電源を入れ直してください。

1. [MENU] ボタンを押します。
2. カーソル・ボタンで [SYSTEM] → [AUTO OFF] を選び、[ENTER] ボタンを押します。
AUTO OFF 画面が表示されます。



3. ダイヤルでオート・オフ機能を設定します。

設定値	説明
OFF	電源は自動的に切れません。
20 minutes (初期値)	一定時間 (20 分または 4 時間) 以内にパッドを叩かなかったり何も操作をしなかったりすると、自動的に電源が切れます。
4 hours	

※ 「20 minutes」以外を選ぶと、確認画面が表示されます。「OK」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

4. [KIT] ボタンを押して、KIT 画面に戻ります。

メモ

Auto Off 機能を「20 minutes」または「4 hours」に設定していると、電源が切れる 10 分前 (20 minutes) または 30 分前 (4 hours) に、電源が切れるまでの時間が表示されます。

ハイハットの設定をする

V ハイハット (VH-10 など) を使うときは、V31 でオフセットの調整をしてください。

オープン、クローズやペダルの動きを正しく検出するために必要です。

例) VH-10 の設定をする

メモ

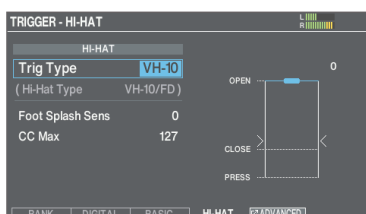
VH-14D など、その他の V ハイハットのオフセット調整方法については、各製品の取扱説明書をご覧ください。

1. ハイハットがモーション・センサー・ユニットから完全に離れた状態で、本機の電源を入れます。



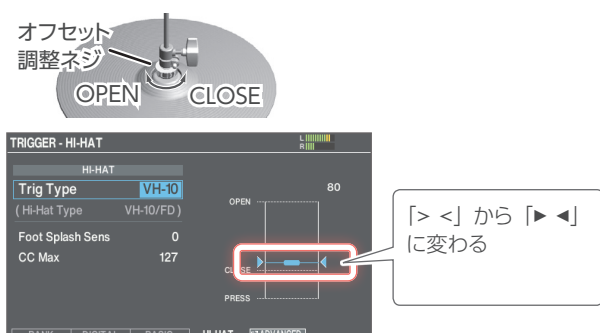
2. VH-10 のクラッチ・スクリューを緩め、ハイハットをモーション・センサー・ユニットの上に自然に置いた状態にします。
3. [MENU] ボタンを押します。
4. カーソル・ボタンで [SYSTEM] → [TRIGGER] を選び、[ENTER] ボタンを押します。
5. [F4] (HI-HAT) ボタンを押します。

TRIGGER - HI-HAT 画面が表示されます。



6. ダイヤルで Trig Type を「VH-10」に設定します。
7. 画面右側に表示されるメーターを見ながら、VH-10 のオフセット調整ネジを回して調整します。

メーターに ▶ ◀ マークが表示されるように調整します。



8. 叩いたときにハイハットが自然に揺れる位置で、クラッチ・スクリューを締めます。

9. [KIT] ボタンを押して、KIT 画面に戻ります。

必要に応じて、パラメーターを微調整します。

→ 『リファレンス・マニュアル』 (Web)

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

奏法について

V31 は、アコースティック・ドラム同様、さまざまな奏法に対応しています。

注意

- 木製や樹脂製のスティックをお使いください。カーボン製や金属製のスティックを使うと、センサーが誤動作することがあります。
- ナイロン製のブラシをお使いください。金属製のブラシを使うと、センサーが誤動作したりパッドを傷付けたりすることがあります。

パッド

ヘッド・ショット

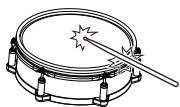


打点位置による音色変化

ヘッド部を叩きます。

特定のスネア音色と打点位置検出が可能なパッド (PD-12P など) を組み合わせて使うと、ヘッドの中心から外周部にかけて叩いた位置の違いによる自然な音色変化が得られます。

リム・ショット



ヘッド部とリム部を同時に叩きます。

ヘッド・ショット時とは異なる音色 (リム音色) が鳴ります。

クロス・スティック奏法



ヘッドに触れないようにリム部のみを叩きます。

リム・ショット奏法時にはリム音色、クロス・スティック奏法時にはクロス・スティック音色というように、各奏法に対応した音色を鳴らし分けることができます。

リム・ショット奏法に対応するパッド (PD-12P など) を専用接続ケーブルの「SN」に接続するか、クロス・スティック奏法が可能なデジタル接続対応のパッド (PD-14DSX、PD-140DS など) を接続して、スネアに割り当てます。

PD-14DSX、PD-140DS では、ヘッドに手を置きながらリム部を叩きます。

ブラシ奏法



ブラシでこする表現 (ブラシ・スイープ奏法) ができます。

専用接続ケーブルの「SN」にメッシュ・ヘッドのパッド (PD-12P など) を接続するか、デジタル接続対応のパッド (PD-14DSX、PD-140DS など) を接続して、スネアに割り当てます。

※ スネアのブラシ音色がアサインされたドラム・キットで、Brush Switch が「ON」のときにブラシ・スイープ奏法をすることができます。

詳しくは『リファレンス・マニュアル』(Web) をご覧ください。

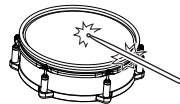
リム・ショットのニュアンスによる音色変化

特定のスネア音色と打点位置検出が可能なパッド (PD-12P など) を組み合わせて使うと、リム・ショットの微妙な叩きかたの違いによって音色のニュアンスが変化します。

通常のリム・ショット

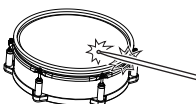
ヘッド中心部とリム部を同時に叩きます。

(オープン・リム・ショット)



浅いリム・ショット

(シャロウ・リム・ショット)



ヘッドのリムに近い部分とリム部を同時に叩きます。

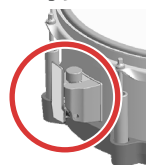
タム音色はシャロウ・リム・ショットに対応していません。

ストレイナーの操作 (PD-14DSX)

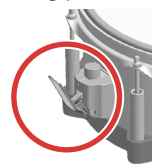
ストレイナー機能付きのスネア (PD-14DSX) の場合、ストレイナーのレバーを操作して、特定のスネア音色のスネア・ワイヤー (響き線) をスネア・サイド (裏面) に付けたり (オン) 離したり (オフ) することができます。

レバーを操作する速度に応じて、操作音の音量が変化します。また、スネア・ワイヤーの操作以外にも、エフェクトのコントロール機能などもアサインすることができます。

オン



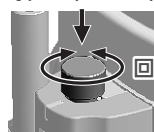
オフ



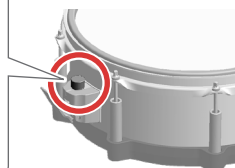
ストレイナーつまみを回して、特定のスネア音色のスネア・ワイヤーの張り具合の調節をしたり、つまみを押してソングの再生/停止をしたりと、さまざまな機能をアサインすることができます。

ストレイナーつまみ

押す (Switch)



回す (Knob)



➔ 詳しくは『リファレンス・マニュアル』(Web) をご覧ください。

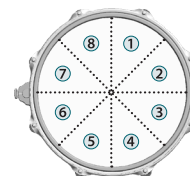
デジタル・ドラムの打点位置検出について

デジタル接続対応のパッドでは、パッドのどの部分を叩いたのか位置を検出しています (打点位置検出)。

たとえば、打面の中心または端、打面の右側または左側など、打点位置に応じてスネア音色が変化します。

打面の中心か端か

打面のどの位置を叩いているか



ハイハット

オープン／クローズ



ハイハット・スタンドのペダルの踏み込み具合により、オープンからクローズまでハイハットの音色が連続的に変化します。

フット・クローズ（ペダルを踏み込んで鳴らす）やフット・スプラッシュ（ペダルを踏み込んで瞬時にオープンして鳴らす）も可能です。

プレッシャー (VH-14D、VH-13)



クローズ状態からさらにペダルを踏み込んでハイハットを叩くと、踏み込む強さに応じて変化したクローズの音色を鳴らすことができます。

VH-11、VH-10、FD-9、FD-8 はプレッシャーに対応していません。

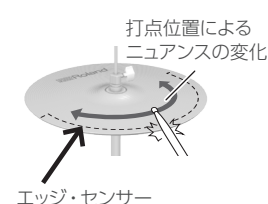
ボウ・ショット



トップ・シンバルの打面を叩く奏法です。接続したトリガー・インプットのヘッド側の音色が鳴ります。

打点位置検出が可能なパッド（VH-14D など）を使用すると、特定のハイハット音色では、ボウ部の打点に応じて音色のニュアンスが変化します。

エッジ・ショット

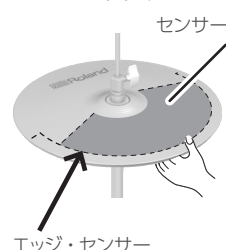


トップ・シンバルのエッジ（端）をスティックのショルダー部で叩く奏法です。図のエッジ・センサーの位置が叩かれたときに、接続したトリガー・インプットのリム側の音色が鳴ります。

エッジを真横から叩いても正しく鳴りません。図のように叩いてください。

打点位置検出が可能なパッド（VH-14D など）を使用すると、特定のハイハット音色では、エッジ部の打点に応じて音色のニュアンスが変化します。

チョーク奏法



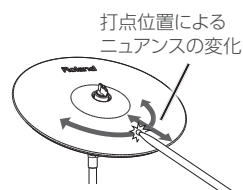
ハイハットを叩いたあと、エッジ・センサーを手でチョークする（つかむ）と、音が止まります。

VH-14D は、センサーの感知する範囲に手を置いて、音が止まります（ミュート）。

チョークやミュート状態で叩くと、音が短く鳴ります。

シンバル

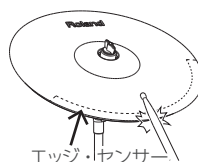
ボウ・ショット



シンバルの打面を叩く最も一般的な奏法です。接続したトリガー・インプットのヘッド側の音色が鳴ります。

特定のライド音色では、ボウ部の打点位置に応じて音色のニュアンスが変化します。

エッジ・ショット

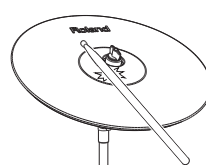


エッジ（シンバルの端）をスティックのショルダー部で叩く奏法です。図のエッジ・センサーの位置が叩かれたときに、接続したトリガー・インプットのリム側の音色が鳴ります。

エッジを真横から叩いても正しく鳴りません。図のように叩いてください。

打点位置検出が可能なパッド（CY-18DR など）を使用すると、特定のシンバル音色では、エッジ部の打点に応じて音色のニュアンスが変化します。

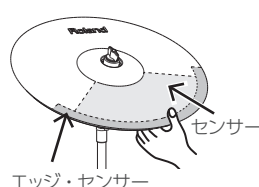
ベル・ショット



ベル部を叩く奏法です。図のベル部が叩かれたときにベルの音色が鳴ります。

専用接続ケーブルの「RD」と「RDB」にライド・3ウェイ・トリガーに対応したパッド（CY-14R-T など）を接続するか、ベル・ショット奏法が可能なデジタル接続対応のパッド（CY-18DR など）を接続して、ライドに割り当てます。

チョーク奏法



シンバルを叩いたあと、エッジ・センサーを手でチョークする（つかむ）と、音が止まります（ミュート）。

CY-18DR は、センサーの感知する範囲に手を置いて、音が止まります。

チョークやミュート状態で叩くと、音が短く鳴ります。

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

V31 の概要

ドラム・キットとインストゥルメント

V31 では、各パッドを叩いたときに鳴る音色を「インストゥルメント」と呼びます。各パッドに割り当てた音（インストゥルメント）のセットを「ドラム・キット」と呼びます。

ドラム・キットの構成は、以下のようになっています。



ユーザー・ドラム・キット 200

ユーザー・ドラム・キット 001

INSTRUMENT (インストゥルメント)

KICK INSTRUMENT	SNARE INSTRUMENT	TOM1 INSTRUMENT	TOM2 INSTRUMENT
TOM3 INSTRUMENT	HI-HAT INSTRUMENT	CRASH1 INSTRUMENT	CRASH2 INSTRUMENT
RIDE INSTRUMENT	AUX INSTRUMENT	TOM4 INSTRUMENT	

INSTRUMENT の設定

パッドごとの設定
音量、パン、イコライザー、コンプレッサー

エフェクトの設定
ルーティング、エフェクト・センド、エフェクト・パラメーター

キットごとの設定
音量、イコライザー、コンプレッサー

その他のドラム・キットの設定
音量、ドラム・キット名、点灯色など

アンビエンスの設定
ドラム・キット全体を集音する、オーバーヘッド、ルームなど

インストゥルメント・エクスパンション

「インストゥルメント」や「ドラム・キット」は、本体内蔵（プリセット）に加えて、「インストゥルメント・エクスパンション」で提供されるものがあります。

インストゥルメント・エクスパンションは、複数の「ドラム・キット」と、サンプル波形を含む高度なモデリング音色である「インストゥルメント」のパッケージです。

Roland Cloud から、以下のようなインストゥルメント・エクスパンションが提供されます。

- DW をはじめとするドラムの名器
- 過去の V-Drums フラッグシップ・モデルのサウンド
- アーティストとコラボレーションしたサウンド



キット・パック

キット・パックは、オーディオ・エンジニアが制作したカスタム・サンプルを使用し、プロ・ドラマーが完成させたドラム・キットのパッケージです。

Roland Cloud から、以下のようなキット・パックが提供されます。

- ロックやポップスなどの名曲を再現したドラム・キット



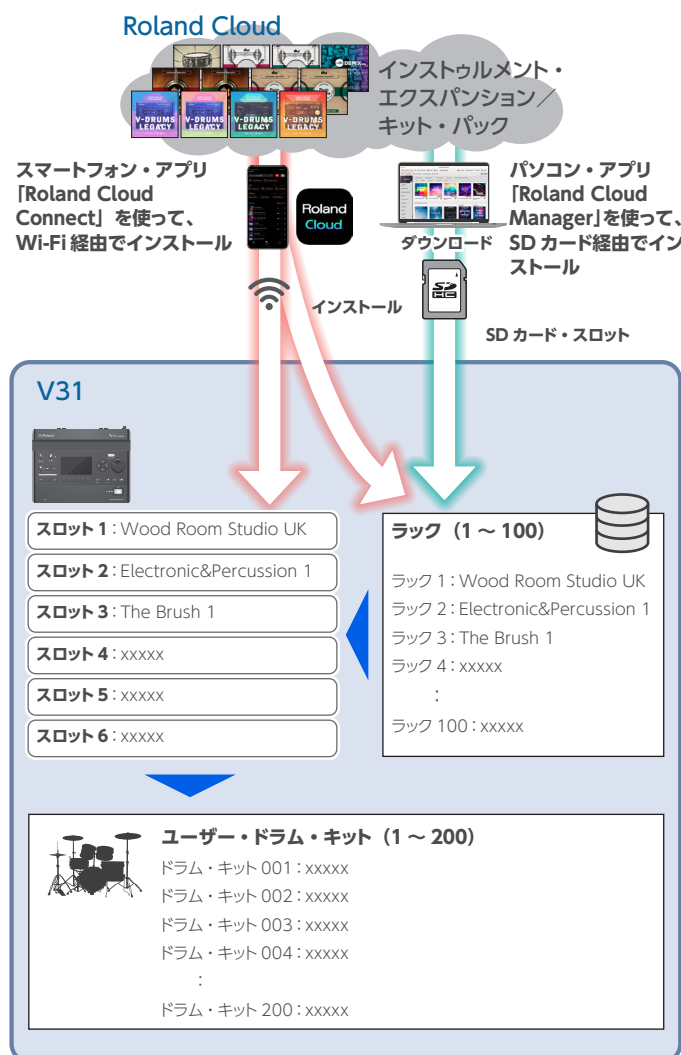
メモ

ドラム・キットのパラメーター構成について、詳しくは『データ・リスト』（Web）をご覧ください。

ラックとスロット

Roland Cloud から、さまざまなインストゥルメント・エクスパンションやキット・パックが提供されます。

Roland Cloud から提供されるインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックは、スマートフォンのアプリ「Roland Cloud Connect」またはパソコンのアプリ「Roland Cloud Manager」を通じて、V31 の「ラック」にインストールし、「スロット」に読み込むことができます。

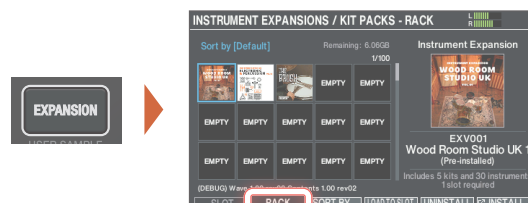


メモ

- スマートフォン・アプリ「Roland Cloud Connect」を使ったインストール方法については、別紙『Roland Cloud Connect セットアップ・ガイド』をご覧ください。
- パソコン・アプリ「Roland Cloud Manager」を使ったインストール方法については、『Roland Cloud ご利用ガイド』(Web)をご覧ください。

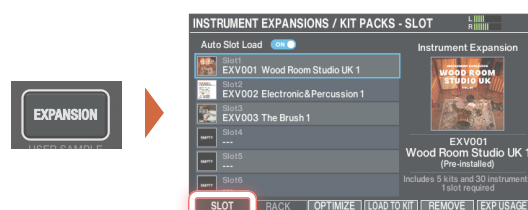
ラック (1 ~ 100)

「ラック」は最大 100 個のインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックをインストールすることができる保存エリアです。



スロット (1 ~ 6)

ラックにインストールしたインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックは「スロット」に読み込むことで演奏できるようになります (P.13)。スロット 1 ~ 6 は、最大 6 個のインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックを読み込むことができます。



メモ

ラックとスロットの 1 ~ 3 には工場出荷時からインストゥルメント・エクスパンションが読み込まれています。

ユーザー・ドラム・キット (001 ~ 200)

スロット 1 ~ 6 にあるインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックの中のドラム・キットは、ユーザー・ドラム・キット 001 ~ 200 にロードすることで、[KIT] ボタンやキット・リストからすぐに呼び出して演奏することができます。

※ 工場出荷時のドラム・キットに上書きして保存することができます。工場出荷時のドラム・キットに戻りたい場合は、一括またはドラム・キット単位で戻すことができます。詳しくは「工場出荷時の設定に戻す」(P.32)、「ドラム・キットを工場出荷時の設定に戻す」(P.33) をご覧ください。

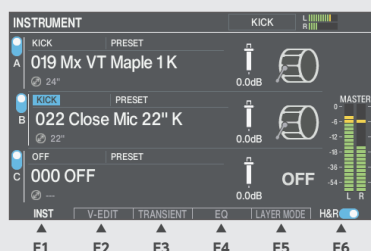
基本操作

全体の音量を調節する
([MASTER/PHONES]
つまみ)

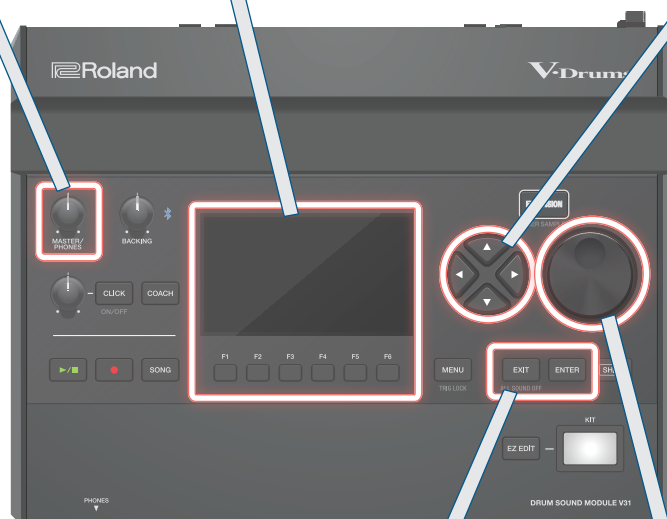
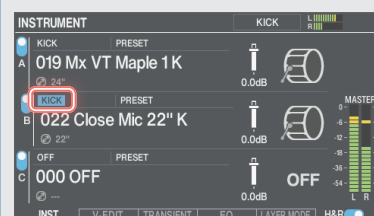
[MASTER/PHONES] つまみを使って、MASTER OUT 端子から出力される音量とヘッドホンの音量を調節します。

タブを切り替える、機能を
設定する ([F1] ~ [F6]
ボタン)

[F1] ~ [F6] ボタンを使って、ディスプレイ下部に表示されているタブを切り替えたり、ディスプレイの下部に表示されている機能を設定したりできます。

カーソルを移動する
(カーソル・ボタン)

カーソルは、画面上の設定可能な部分を反転表示します。画面の中に設定する内容がいくつかあるときは、カーソル・ボタンを押して設定したいところにカーソルを合わせます。



1 つ前の画面に戻る ([EXIT] ボタン)

前の画面に戻りたいときは、[EXIT] ボタンを押します。

操作を決定する ([ENTER] ボタン)

値の確定、操作の実行、またはリストを表示するときに使います。

値を変える (ダイヤル)

カーソルで反転表示された値を変更するには、ダイヤルを使います。また、[SHIFT] ボタンを押しながら操作すると、値の変化量が大きくなります。

演奏する

ドラム・キットを選ぶ

1. [KIT] ボタンを押します。

KIT 画面が表示されます。



2. ダイアルでドラム・キットを選びます。

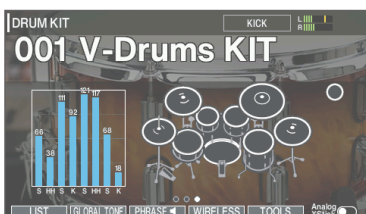
KIT 画面について

この画面は、[KIT] ボタンを押すと表示される、V31 の基本となる画面です。



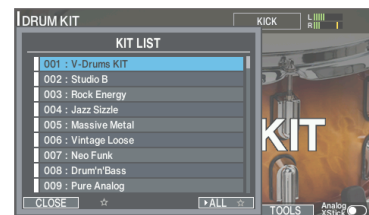
メモ

KIT 画面で [◀] [▶] ボタンを押すと、KIT 画面に出力音量やトリガー信号のレベル・メーターを表示させることができます。



リストからドラム・キットを選ぶ

KIT 画面で [F1] (LIST) ボタンを押すと、KIT LIST ウィンドウが表示され、一覧からドラム・キットを選ぶことができます。



インストゥルメント・エクスパンション／キット・パックのドラム・キットを読み込む

スロット 1 ～ 3 には工場出荷時からインストゥルメント・エクスパンションが読み込まれています。

ここでは、インストゥルメント・エクスパンションのドラム・キットを読み込む手順を例に説明します。

キット・パックのドラム・キットも同じ手順で読み込むことができます。

1. [EXPANSION] ボタンを押します。

メモ

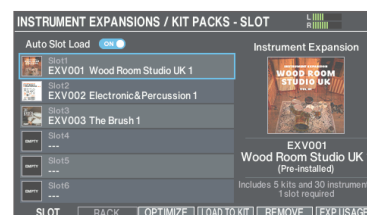
初回は Roland Cloud の紹介画面が表示されます。『Roland Cloud Connect セットアップ・ガイド』(別紙)に記載の手順で Roland Cloud に接続してください。

あとで設定する場合は、[F6] (SKIP) ボタンを押します。

※ [F1] ボタンを押すと、今後この画面は表示されなくなります。再び表示させたい場合は、INSTRUMENT EXPANSIONS / KIT PACKS 画面で、[SHIFT] ボタンを押しながら [F5] (Roland Cloud) ボタンを押します。

2. [F1] (SLOT) ボタンを押します。

INSTRUMENT EXPANSIONS / KIT PACKS - SLOT 画面が表示されます。



3. ロードしたいインストゥルメント・エクスパンションにカーソルを合わせ、[F4] (LOAD TO KIT) ボタンを押します。



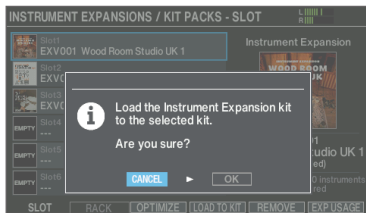
[F5] (PREVIEW) ボタンを押すと、ロードする前にドラム・キットの音を確認することができます。

4. ロードしたいインストゥルメント・エクスパンションのドラム・キットにカーソルを合わせ、[F6] (LOAD) ボタンを押します。



5. ダイヤルでロード先のドラム・キットを選びます。
6. [F6] (LOAD) ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



7. [OK] を選び、[ENTER] ボタンを押します。

ドラム・キットのロードが実行されます。

メモ

Roland Cloud からインストゥルメント・エクスパンションをインストールする方法については、別紙『Roland Cloud Connect セットアップ・ガイド』をご覧ください。

クリックを鳴らす

クリックをオン／オフする

1. [CLICK] ボタンを押します。

CLICK 画面が表示されます。



2. [F6] ボタンを押します。

クリックが鳴ります。

[CLICK] つまみで、クリックの音量を調節することができます。

3. もう一度、[F6] ボタンを押します。

クリックが止まります。

メモ

- [SHIFT] ボタンを押しながら [CLICK] ボタンを押して、クリックをオン／オフすることもできます。
- ヘッドホンだけにクリックを出力することもできます。
→ 『リファレンス・マニュアル』 (Web)

テンポを変更する

1. CLICK 画面で「Tempo」を選び、ダイヤルでテンポを変更します。

メモ

- [SHIFT] ボタンを押しながらダイヤルを回すと、小数点以下の値を変更することができます。
- [F4] (TAP TEMPO) ボタンを押す間隔で、テンポを設定できます (タップ・テンポ)。

拍子の設定を変更する

1. CLICK 画面で「Beat」を選び、ダイヤルで拍子を変更します。
2. [KIT] ボタンを押して、KIT 画面に戻ります。

その他の設定については、『リファレンス・マニュアル』 (Web) をご覧ください。

コーチ・モードで練習する

本機には、練習効果を最大限に引き出す「コーチ・モード」が搭載されています。

スピードのコントロール能力や、精度、持久力を鍛えるとともに、タイミングをうまくとる練習に適しています。

コーチ・モードには、調整できるパラメーターがいくつか用意されているため、それぞれのレベルに応じた練習をすることができます。

フレーズに合わせて正確に叩く (PHRASE TRAINER)

フレーズに合わせて、正確に叩く練習をするモードです。

V31 には、練習に適したさまざまなフレーズが内蔵されています。

1. [COACH] ボタンを押します。
2. カーソル・ボタンまたはダイヤルで「PHRASE TRAINER」を選び、[ENTER] ボタンを押します。
3. 練習するフレーズを選びます。

カテゴリーの選択: [◀] [▶] ボタンまたは [F1] (CATEGORY) ボタン

フレーズの選択: [▼] [▲] ボタンまたはダイヤル

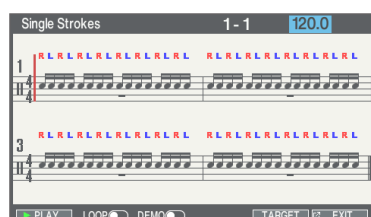
カテゴリー	説明
Exercises	基礎練習に適したフレーズです。
Grooves & Fills	リズム・パターンとフィルの練習に適したフレーズです。

メモ

- [F4] (PREVIEW) ボタンを押すと、選んでいるフレーズをプレビュー再生することができます。
- [F3] (SETUP) ボタンを押すと、どのドラム・キットでフレーズを練習するかや、結果を表示するマークを選ぶことができます。
- [F5] (CLICK) ボタンを押すと、クリックの設定 (P.14) をすることができます。

4. [F6] (START) ボタンを押します。

フレーズの譜面が表示されます。



メモ

- 停止中に [F2] (LOOP) ボタンを押してオンにすると、フレーズを繰り返し練習する (ループ再生) ことができます。
- [F3] (DEMO) ボタンを押してオンにすると、再生中にフレーズのデモ演奏を鳴らすことができます。デモ演奏中は叩いた音は鳴りません。
- [F5] (TARGET) ボタンを押すと、練習するパッドを選ぶことができます。
- ダイヤルで練習するテンポを変えることができます。

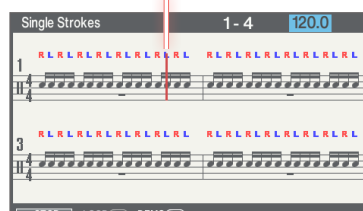
5. [F1] (▶ PLAY) ボタンを押して、開始します。

メモ

- 練習を途中で終了するときは、[F1] (■ STOP) ボタンを押します。
- [▶/■] ボタンでも再生/停止の操作ができます。

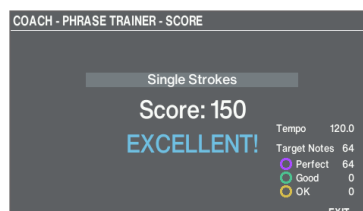
6. フレーズに合わせてパッドを叩きます。

フレーズの再生位置



フレーズの再生が終わると、どれだけ正確にフレーズを叩いたかの結果が表示されます。

ループ再生していると結果は表示されません。



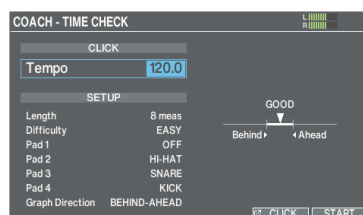
7. [F6] (EXIT) ボタンを押して、終了します。

ビートに合わせて正確に叩く (TIME CHECK)

クリックに合わせて、正確に叩く練習をするモードです。

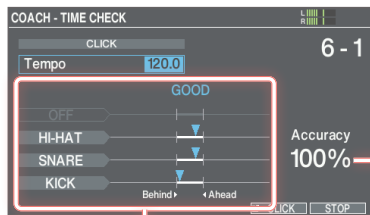
1. [COACH] ボタンを押します。
2. カーソル・ボタンまたはダイヤルで「TIME CHECK」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

COACH - TIME CHECK 画面が表示されます。



3. ダイヤルでテンポを変更します。
4. [F6] (START) ボタンを押して、開始します。

5. クリックに合わせてパッドを叩きます。



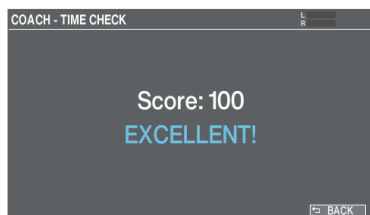
正確なタイミングで叩いた割合が「%」で表示されます。

パッドを叩いたタイミングがクリックに合っているかどうかを、画面に表示します。

Behind: 遅い

Ahead: 早い

クリックの再生が終わると、どれだけ正確にフレーズを叩いたかの結果が表示されます。



メモ

練習を途中で終了するとき、[F6] (STOP) ボタンを押します。

6. [F6] (BACK) ボタンを押して、終了します。

TIME CHECK の設定 (SETUP)

練習するパッドの種類や、練習する小節数などを変更することができます。

パラメーター	設定値	説明
Length	4、8、16、32 meas、INF	練習する小節数を設定します。「INF」に設定すると、[F6] (STOP) ボタンを押すまで止まりません。
Difficulty	EASY	標準
	HARD	より厳しくタイミングをチェックします。
Pad 1 ~ 4	練習するパッドの種類を選びます。最大 4 種類まで設定することができます。	
Graph Direction	BEHIND-AHEAD	タイミング・グラフの左が BEHIND (遅い) で表示されます。
	AHEAD-BEHIND	タイミング・グラフの左が AHEAD (早い) で表示されます。

メモ

[F5] (CLICK) ボタンを押すと、クリックの設定 (P.14) をすることができます。

身体でテンポを感じる (QUIET COUNT)

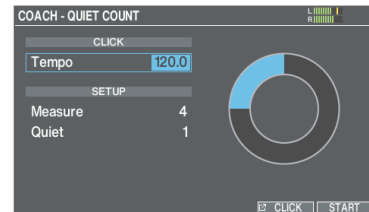
テンポをキープして叩く練習をするモードです。

最初の数小節は設定された音量でクリックが鳴りますが、次の数小節のクリックは鳴りません。停止させるまで、この数小節間隔のサイクルが続きます。

1. [COACH] ボタンを押します。

2. カーソル・ボタンまたはダイヤルで「QUIET COUNT」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

COACH - QUIET COUNT 画面が表示されます。

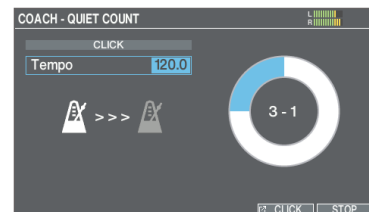


3. ダイヤルでテンポを変更します。

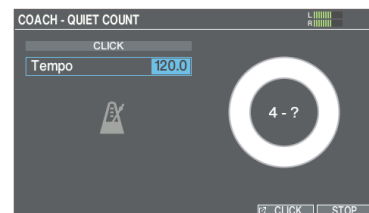
4. [F6] (START) ボタンを押して、開始します。

5. クリックのテンポに合わせて、パッドを叩きます。

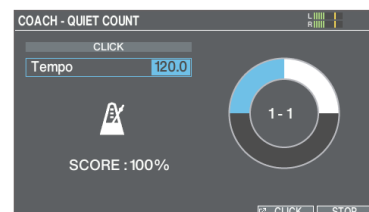
- 最初の数小節はクリックが鳴ります。クリックが発音する最後の小節になると、画面に「AX >>> AX」が表示されます。



- クリックが鳴り終わると、画面の表示が「AX」に変わります。この間もパッドを叩き続けます。



- Quiet の区間のあと、正確なテンポで叩いた割合が「%」で表示されます。



6. [F6] (STOP) ボタンを押して、終了します。

QUIET COUNT の設定 (SETUP)

練習する小節数などを変更することができます。

パラメーター	設定値	説明
Measures	2、4、8、16 (小節)	「クリック発音」と「Quiet」の繰り返し区間の長さ (小節) を設定します。
Quiet		Measures で設定した小節のうち、Quiet にする小節の長さを設定します。
	RANDOM	Quiet の区間が毎回ランダムに設定されます。
	1、2、4	設定した長さ (小節) が Quiet の区間に設定されます。 ※ Measures で設定した値の半分より大きい値を設定することはできません。

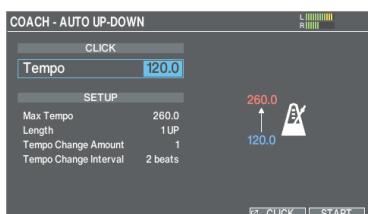
メモ

[F5] (CLICK) ボタンを押すと、クリックの設定 (P.14) をすることができます。

変化するテンポに合わせて叩く (AUTO UP/DOWN)

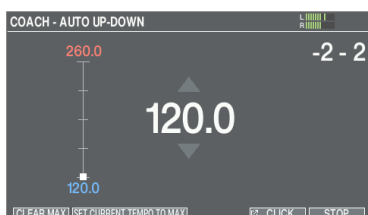
変化するテンポに合わせて叩く練習をするモードです。

1. [COACH] ボタンを押します。
2. カーソル・ボタンまたはダイヤルで「AUTO UP/DOWN」を選び、[ENTER] ボタンを押します。
COACH - AUTO UP/DOWN 画面が表示されます。

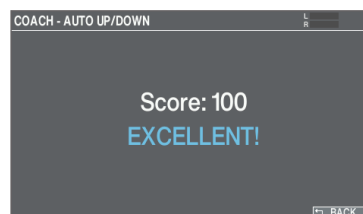


3. ダイヤルで、練習開始時のテンポ (開始テンポ) を設定します。
4. [F6] (START) ボタンを押して、開始します。
5. 変化するテンポに合わせて、パッドを叩きます。

Length (P.17) の設定に従って、開始テンポ → 最大テンポの間でテンポが変化します。



練習が終わると、どれだけ正確に叩いたかの結果が表示されます。



メモ

- 練習を途中で終了するときは、[F6] (STOP) ボタンを押します。
- 最大テンポは、テンポの変化を確認しながら設定することができます。[F1] (CLEAR MAX) ボタンを押して最大テンポを 260.0 (最大値) にして練習を始め、希望する最大テンポになったときに [F2] (SET CURRENT TEMPO TO MAX) ボタンを押します。

6. [F6] (BACK) ボタンを押して、終了します。

AUTO UP/DOWN の設定 (SETUP)

練習する小節数などを変更することができます。

パラメーター	設定値	説明
Max Tempo	20.0 ~ 260.0	最大テンポ ※ 開始テンポより小さい値を設定することはできません。
Length		テンポの変化のしかたを設定します。
	1UP	開始テンポ → 最大テンポで変化します。
	1UP-DOWN	開始テンポ → 最大テンポ → 開始テンポで変化します。
	3UP-DOWN	開始テンポ → 最大テンポ → 開始テンポを 3 回繰り返します。
	INF	[F6] (STOP) ボタンを押すまで、開始テンポ → 最大テンポ → 開始テンポを繰り返します。
Tempo Change Amount	1、4、5、8、10、20	テンポが変化する大きさを設定します。
Tempo Change Interval	2 beats、1、2、4、8、16 meas	テンポを変化させる間隔を設定します。

メモ

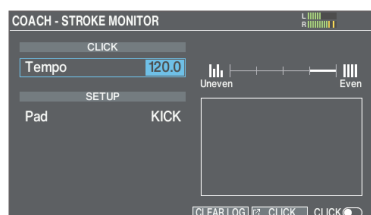
[F5] (CLICK) ボタンを押すと、クリックの設定 (P.14) をすることができます。

一定の強さで叩く (STROKE MONITOR)

パッドを叩いたときの強さを確認することで、一定の強さで叩く練習をするモードです。

左右の手で叩いた強さや、ツイン・ペダル使用時に左右の足で踏んだ強さのばらつきなどを確認するのに便利です。

1. [COACH] ボタンを押します。
2. カーソル・ボタンまたはダイヤルで「STROKE MONITOR」を選び、[ENTER] ボタンを押します。
COACH - STROKE MONITOR 画面が表示されます。



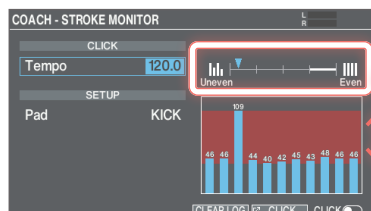
3. カーソル・ボタンとダイヤルで、練習の設定をします。

パラメーター	設定値	説明
Tempo	20.0 ~ 260.0	クリックのテンポを設定します。 クリックを鳴らしたいときは、[F6] (CLICK) ボタンでオンにします。
Pad		練習するパッドを選びます。

メモ

[F5] (CLICK) ボタンを押すと、クリックの設定 (P.14) をすることができます。

4. 一定の強さになるように、パッドを叩きます。



一定の強さで叩くほど、画面のメーターが「Even」に近づきます。

一定の強さで叩くほど、赤いラインが狭くなります。

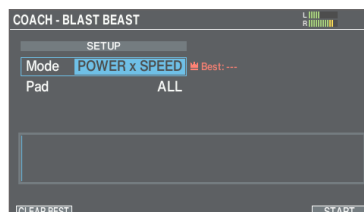
メモ

[F4] (CLEAR LOG) ボタンを押すと、表示をクリアすることができます。

強く速く叩く (BLAST BEAST)

パッドをできるだけ強く、かつ速く叩き、10 秒間でどれだけ叩けたか確認するモードです。

1. [COACH] ボタンを押します。
2. カーソル・ボタンまたはダイヤルで「BLAST BEAST」を選び、[ENTER] ボタンを押します。
COACH - BLAST BEAST 画面が表示されます。

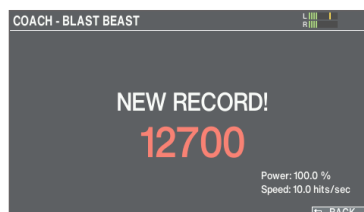


3. カーソル・ボタンとダイヤルで、練習の設定をします。

パラメーター	設定値	説明
Mode	練習のモードを選びます。	
	POWER x SPEED	パッドを叩く強さと速度で練習します。
	SPEED	パッドを叩く速度で練習します。
Pad		練習するパッドを選びます。

4. [F6] (START) ボタンを押して、練習を開始します。
5. できるだけ強く速く 10 秒間パッドを叩きます。

練習を開始してから 10 秒後、どれだけ強く速く叩いたかの結果が表示されます。



メモ

- 練習を途中で終了するときは、[F6] (STOP) ボタンを押します。
- [F1] (CLEAR BEST) ボタンを押すと、過去の最高点数をクリアすることができます。

曲に合わせて演奏する

スマートフォンに入っている曲や本機で再生できるソングに合わせて、ドラム演奏を楽しむことができます。

スマートフォンの曲に合わせて演奏する

スマートフォンの曲を本機で鳴らしながら演奏することができます。

Bluetooth で無線接続する

スマートフォンと本機を Bluetooth で無線接続するには、スマートフォンに本機を登録する（お互いを認証する）ための「ペアリング」が必要です。

ここでは、例として iPhone を使った設定方法を紹介します。

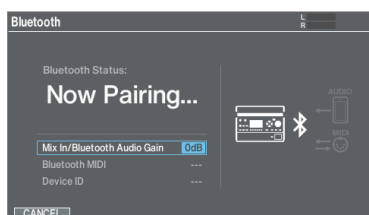


※ 本機とのペアリングが済んだスマートフォンは、再度ペアリングする必要はありません。「ペアリング済みのスマートフォンを接続する」(P.19) の手順をご覧ください。

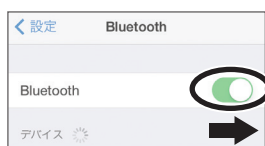
スマートフォンを登録する（ペアリング）

1. 接続したいスマートフォンを、V31 周辺に置きます。
2. [MENU] ボタンを押します。
3. カーソル・ボタンで [SYSTEM] → [Bluetooth] を選び、[ENTER] ボタンを押します。
4. [F6] (Bluetooth) ボタンを押して、Bluetooth Switch を「ON」にします。
5. [F1] (PAIRING) ボタンを押します。

「Now Pairing...」と表示され、V31 はモバイル機器からの応答を待ちます。



6. スマートフォンの設定で、Bluetooth 機能をオンにします。



7. スマートフォンの Bluetooth 「デバイス」 欄に表示される「V31 AUDIO」をタップします。

本機とスマートフォンがペアリングされます。ペアリングが完了すると、以下のように表示されます。

スマートフォン	「自分のデバイス」欄に「V31 AUDIO」が追加され、「接続済み」と表示される
V31	「Connected (AUDIO)」と表示される

8. [KIT] ボタンを押して、KIT 画面に戻ります。

ペアリング済みのスマートフォンを接続する

1. スマートフォンの設定で、Bluetooth 機能をオンにします。

スマートフォンと本機が Bluetooth で接続されます。

※ 上記の操作で接続ができなかった場合は、スマートフォンの「デバイス」欄に表示されている「V31 AUDIO」をタップしてください。

スマートフォンの曲を再生する

スマートフォンで曲を再生すると、本機に接続したヘッドホンやアンプ内蔵スピーカーから音が鳴ります。

曲の音量は、本機の [BACKING] つまみ、Mix In/Bluetooth Audio Gain、またはスマートフォン側で調節してください。

メモ

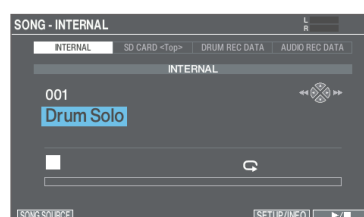
- 本機でスマートフォンの曲を操作することができます。詳しくは『リファレンス・マニュアル』(Web) をご覧ください。
 - スマートフォンで再生した曲は、V31 の演奏音と一緒に録音することができます。
 - MIX IN (STEREO) 端子にスマートフォンを接続して、スマートフォンの曲を本機で鳴らしながら演奏することもできます。
- ※ スマートフォンや音楽再生アプリによっては、V31 から曲の操作ができない場合があります。

V31 のソングに合わせて演奏する

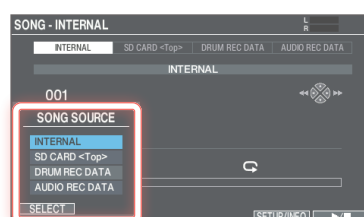
本機は、いろいろなジャンルの曲（ソング）を内蔵しています。内蔵ソングには、オーディオ・データのもの、ドラム演奏を録音したもの（MIDI データ）があります。また、SD カードに入れたオーディオ・ファイル（WAV / MP3）をソングとして再生することができます。

1. [SONG] ボタンを押します。

SONG 画面が表示されます。

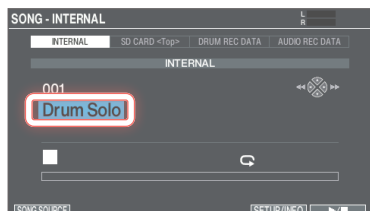


2. [F1] (SONG SOURCE) ボタンを押して SONG SOURCE リストを表示し、[F1] (SELECT) ボタンを押して再生するソングの種類を選びます。



ソングの種類	説明
INTERNAL	内蔵ソング
SD CARD<Top>	SD カードのソング
DRUM REC DATA	本機で録音したドラム演奏データのソング
AUDIO REC DATA	本機で録音したオーディオ・データのソング

3. ソングにカーソルを合わせ、ダイヤルでソングを選びます。



4. [▶/■] ボタンを押します。

選んだソングが再生されます。

メモ

[F6] (▶/■) ボタンでも再生/停止の操作ができます。

操作子	機能
[▶/■] ボタン、 [F6] (▶/■) ボタン	ソングの再生/停止 *1
[SHIFT] + [◀] ボタン	ソングの先頭に移動 *1
[SHIFT] + [▶] ボタン	ソングの末尾に移動 *1
[◀] ボタン	ソングの早戻し *1
[▶] ボタン	ソングの早送り *1
ダイヤル	ソングの早戻し、ソングの早送り *1、*2
[BACKING] つまみ	ソング (オーディオ・ファイル) の音量 調節 *3

*1: ソングの種類によっては、無効になることがあります。

*2: シーク・バー (再生位置を示すバー) にカーソルがあるときに有効です。

*3: 内蔵ソングのドラム演奏音や、録音したドラムの演奏音には効きません。

メモ

- ソング全体を繰り返して再生したり、一定区間を繰り返して再生したりすることができます。
- SD カードのオーディオ・ファイルをクリック・トラックとして出力することで、ソングに合わせてクリックを鳴らすことができます。
→ 『リファレンス・マニュアル』 (Web)

パソコンから SD カードにオーディオ・ファイルを保存するときは

SD カードのトップ・ディレクトリー (一番上の階層) に保存されたオーディオ・ファイルを再生することができます。

※ 1 つのフォルダーに保存するファイルは 200 個以内にしてください。

※ ソングの長さは、1 ファイルが 1 時間以内になるようにしてください。

メモ

詳しくは『リファレンス・マニュアル』 (Web) をご覧ください。

V31 で再生できるオーディオ・ファイル

	WAV ファイル	MP3 ファイル
形式 (拡張子)	WAV (.wav)	MP3 (.mp3)
サンプリング周波数	44.1kHz	44.1kHz
ビット数	16、24 ビット	64kbps ~ 320kbps

※ 16 文字以上のファイル名やフォルダー名は、正しく表示されません。また、2 バイト文字を使ったファイルやフォルダーには対応していません。

お気に入りのドラム・キットを登録する ／呼び出す

お気に入りのドラム・キットを登録しておくと、即座に呼び出すことができます。

お気に入りの登録する

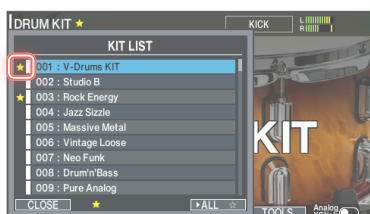
1. KIT 画面 (P.13) で、[F1] (LIST) ボタンを押します。

KIT LIST ウィンドウが表示されます。

2. カーソル [▼] [▲] ボタンまたはダイヤルで、登録するドラム・キットにカーソルを合わせます。

3. [F2] (★) ボタンを押します。

ドラム・キットに「★」マークが付き、お気に入りのドラム・キットに登録されました。



メモ

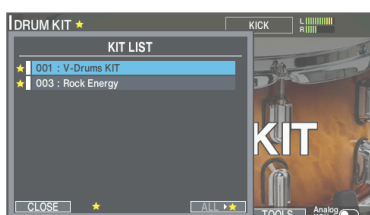
お気に入りの登録したドラム・キットを解除するときは、[F2] (★) ボタンを押して「★」マークを非表示にします。

登録したドラム・キットを呼び出す

1. KIT 画面 (P.13) で、[F1] (LIST) ボタンを押します。

2. [F4] (▶ALL ★) ボタンを押します。

お気に入りの登録したドラム・キットの一覧が表示されます。



3. カーソル [▼] [▲] ボタンまたはダイヤルでドラム・キットを選びます。

4. [KIT] ボタンを押して、KIT 画面に戻ります。

演奏を録音する

自分の演奏を簡単に録音して、再生することができます。

ドラムの演奏データ (MIDI) として録音 (DRUM REC) したり、オーディオ・データ (WAV) として録音 (AUDIO REC) したりすることができます。

ここでは、オーディオ録音 (AUDIO REC) の手順を例に説明します。MIDI 録音 (DRUM REC) の詳細について、詳しくは『リファレンス・マニュアル』(Web) をご覧ください。

オーディオ録音する (AUDIO REC)

演奏をオーディオ・データ (WAV) として録音します。

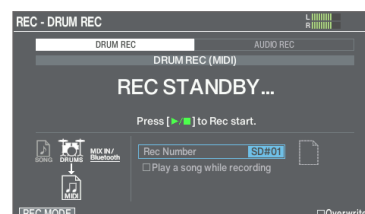
※ SD カードに保存する場合は、あらかじめ SD カードを挿入しておきます (P.4)。

注意

AUDIO REC で録音すると、録音終了後の AUDIO REC PLAYBACK 画面を抜けると、録音データは消去されます。必要なデータは、必ず SD カードに保存してください。

1. [●] ボタンを押します。

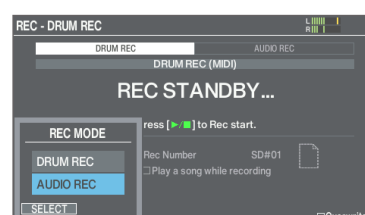
REC 画面が表示され、録音のスタンバイ状態になります。



メモ

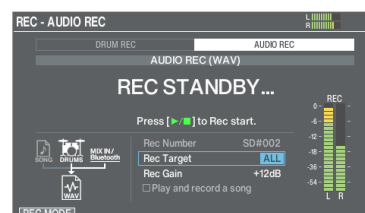
クリックに合わせて録音したいときは、クリックを鳴らします (P.14)。

2. [F1] (REC MODE) ボタンを押して、REC MODE ウィンドウを表示させます。



3. カーソル [▼] [▲] ボタンまたはダイヤルで「AUDIO REC」を選び、[F1] (SELECT) ボタンを押します。

REC - AUDIO REC 画面が表示されます。



4. カーソル・ボタンとダイヤルで、録音の設定をします。

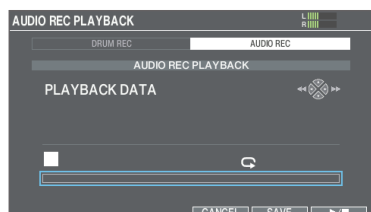
パラメーター	設定値	説明
Rec Number (*1)	TEMPORARY	本体の一時的なエリアに録音します。最大約 1 分録音できます。 ※ V31 に SD カードを挿入していないときに選ばれます。
	SD#001 ~ 200	SD カードに録音します。最大約 60 分録音できます。 ※ V31 に SD カードを挿入しているときに選ばれます。
Rec Target	ALL	ドラム演奏に加え、MIX IN (STEREO) 端子からの入力音や Bluetooth 接続したスマートフォンの再生音も録音します。
	DRUMS ONLY	ドラム演奏のみ録音します。
Rec Gain	-24 ~ +24dB	録音の音量を調節します。 録音開始前にレベル・メーターを見ながら調節してください。

*1 : Rec Number は自動的に設定されます。

5. [▶/■] ボタンを押して、録音を始めます。

6. [▶/■] ボタンを押して、録音を終了します。

AUDIO REC PLAYBACK 画面が表示されます。



再生する

7. [▶/■] ボタンを押します。

録音した演奏が再生されます。

8. [▶/■] ボタンを押して、再生を終了します。

メモ

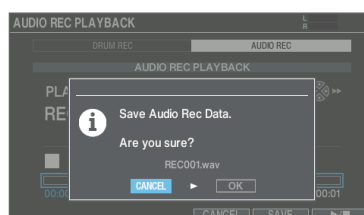
[F6] (▶/■) ボタンでも再生／停止の操作ができます。

録音データを SD カードに保存する

録音データを保存しないときは、[F4] (CANCEL) ボタンを押して録音を終了します。

9. [F5] (SAVE) ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは、「CANCEL」を選んで [ENTER] ボタンを押します。

10. [OK] を選び、[ENTER] ボタンを押します。

録音データが SD カードに保存されます。

メモ

ソングに合わせて演奏を録音することもできます。詳しくは『リファレンス・マニュアル』(Web) をご覧ください。

ドラム・キットをカスタマイズする

V31 では、ヘッドの種類やシェルの深さなどドラム自体のカスタマイズから残響の調節まで、幅広い音作りができます。

設定の保存

V31 では、変更した値は自動的に保存されるため、設定を保存する操作は必要ありません。

また、電源をオフにするときも設定が保存されます。

ドラム・キットを細かくエディットする

メニューの KIT EDIT、KIT OPTIONS から、ドラム・キットを細かくエディットすることもできます。詳しくは『リファレンス・マニュアル』(Web) をご覧ください。

メモ

- エディット中のドラム・キットを一時的に保存しておき、現在の設定と聴き比べながらエディットすることができます (スナップショット機能)。詳しくは『リファレンス・マニュアル』(Web) をご覧ください。
- エディットしたドラム・キットを元の状態に戻したいときは、「ドラム・キットを工場出荷時の設定に戻す」(P.33) をご覧ください。

ドラム・キットを簡単にエディットする (EZ EDIT)

V31 では、EZ EDIT を使ってドラム・キットを簡単にエディットすることができます。

EZ EDIT では、ヘッドの設定に合わせて自動的にリムの設定も調整されます。

インストゥルメントを選ぶ

スnea・ドラム、キック・ドラムなど、それぞれのインストゥルメント (楽器音) を設定します。

メモ

V31 では、パッド (ヘッドやリムなどの各トリガー) ごとに最大 3 つのインストゥルメント (レイヤー A ~ C) を重ねることができます。

▶ 選べるインストゥルメントについては、『リファレンス・マニュアル』(Web) をご覧ください。

1. [EZ EDIT] ボタンを押します。

2. [F1] (INST) ボタンを押します。

EZ EDIT - INSTRUMENT 画面が表示されます。



3. 設定するパッドを選びます (本ページのコラム参照)。

4. カーソル・ボタンを押して、インストゥルメントにカーソルを合わせます。

5. ダイアルでインストゥルメントを選びます。

メモ

- [ENTER] ボタンまたは [F5] (LIST) ボタンを押して、リストからインストゥルメントを選ぶこともできます。
- [F6] (UNDO) ボタンを押すと、画面に入ったときの設定に戻すことができます。

6. [KIT] ボタンを押して、KIT 画面に戻ります。

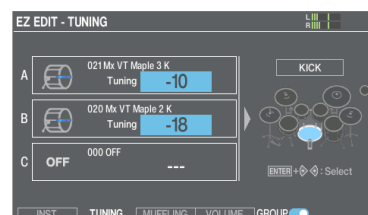
チューニングをする

ヘッドのチューニングをしたり、シンバルのサイズを選んだりすることができます。

1. [EZ EDIT] ボタンを押します。

2. [F2] (TUNING) ボタンを押します。

EZ EDIT - TUNING 画面が表示されます。



3. 設定するパッドを選びます。

4. ダイアルで値を変更します。

メモ

- [F5] (GROUP) ボタンを押して、インストゥルメント (レイヤー A ~ C) をセットで設定するか (オン) / 個別に設定するか (オフ) を選ぶことができます。
- [F6] (UNDO) ボタンを押すと、画面に入ったときの設定に戻すことができます。

5. [KIT] ボタンを押して、KIT 画面に戻ります。

設定するパッドを選ぶ

パッドを叩いて選ぶ

各パッドの設定をするときは、設定するパッドを叩いて選びます。

パッドのリム側を選ぶときは、リムを叩きます。

[ENTER] ボタンを押しながら [◀] [▶] ボタンを押して、パッドを選ぶ

[ENTER] ボタンを押しながら [◀] [▶] ボタンを押して、設定するパッドを選ぶこともできます。

[ENTER] ボタンを押しながら [▼] [▲] ボタンを押して、ヘッド／リムを選ぶ

[ENTER] ボタンを押しながら [▼] [▲] ボタンを押して、設定するパッドのヘッド／リムを選ぶこともできます。

メモ

[SHIFT] ボタンを押しながら [MENU] ボタンを押すと、パッドを叩いても、設定するパッドが切り替わりなくなります。フレーズを演奏しながら設定するときに便利です (トリガー・ロック)。

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

マフリング（ミュート）の設定をする

マフリング（ミュート）のしかたを設定することができます。

1. [EZ EDIT] ボタンを押します。
2. [F3] (MUFLING) ボタンを押します。
EZ EDIT - MUFLING 画面が表示されます。



3. 設定するパッドを選びます (P.23)。
4. ダイヤルで値を変更します。

メモ

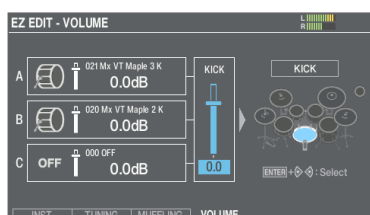
- [F5] (GROUP) ボタンを押して、インストゥルメント（レイヤー A～C）をセットで設定するか（オン）／個別に設定するか（オフ）を選ぶことができます。
- [F6] (UNDO) ボタンを押すと、画面に入ったときの設定に戻すことができます。

5. [KIT] ボタンを押して、KIT 画面に戻ります。

インストゥルメントやパッドの音量を調節する

インストゥルメントやパッドの音量を調節します。

1. [EZ EDIT] ボタンを押します。
2. [F4] (VOLUME) ボタンを押します。
EZ EDIT - VOLUME 画面が表示されます。



3. 設定するパッドを選びます (P.23)。
4. カーソル・ボタンでパラメーターを選び、ダイヤルで値を変更します。

メモ

[F6] (UNDO) ボタンを押すと、画面に入ったときの設定に戻すことができます。

オーディオ・ファイルを取り込む／鳴らす (USER SAMPLE)

パソコンで作成したオーディオ・ファイルを、SD カードから V31 に取り込み、インストゥルメントとして鳴らすことができます（ユーザー・サンプル機能）。ユーザー・サンプルは、他のインストゥルメントと同じように、音色を調節したり、エフェクトをかけたりできます。

V31 に取り込めるオーディオ・ファイル

WAV ファイル	
形式（拡張子）	WAV (.wav)
サンプリング周波数	44.1、48、96kHz
ビット数	16、24、32 ビット
時間	最大 180 秒

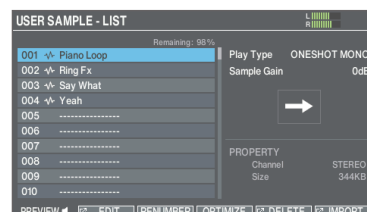
※ 31 文字以上のファイル名やフォルダー名は、正しく表示されません。また、2 バイト文字を使ったファイルやフォルダーには対応していません。

オーディオ・ファイルを取り込む

オーディオ・ファイルをユーザー・サンプルとして、V31 に取り込みます。

1. SD カードを V31 に挿入します (P.4)。
2. [SHIFT] ボタンを押しながら [EXPANSION] ボタンを押します。

USER SAMPLE LIST 画面が表示されます。



3. カーソル・ボタンでインポート先の番号を選び、[F6] (IMPORT) ボタンを押します。

USER SAMPLE IMPORT 画面が表示されます。



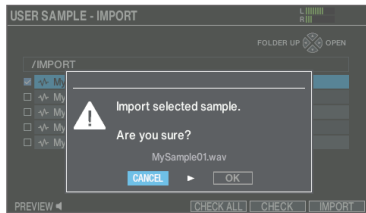
※ すでにデータがある番号を選べと、「User Sample already exists!」とメッセージが表示されます。データのない番号を選んでください。

- カーソル・ボタンでオーディオ・ファイルを選び、[F6] (IMPORT) ボタンを押します。

カーソル・ボタン	機能
[▲] ボタン	カーソルの移動 (上)
[▼] ボタン	カーソルの移動 (下)
[◀] ボタン	フォルダーを抜ける
[▶] ボタン	フォルダーに入る

- [F6] (IMPORT) ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するとき、[CANCEL] を選んで [ENTER] ボタンを押します。

- [OK] を選び、[ENTER] ボタンを押します。

オーディオ・ファイルが取り込まれます。

メモ

オーディオ・ファイルをまとめて取り込むこともできます。詳しくは『リファレンス・マニュアル』(Web) をご覧ください。

ユーザー・サンプルをインストゥルメントに割り当てる／鳴らす

- [EZ EDIT] ボタンを押します。
- [F1] (INST) ボタンを押します。
- 設定するパッドを選びます (P.23)。
- [F5] (LIST) ボタンを押します。
INST LIST ウィンドウが表示されます。
- [F5] (GROUP>) ボタンで「USER SAMPLE」のインストゥルメント・グループを選び、カーソル [▼] [▲] ボタンでユーザー・サンプルを選びます。



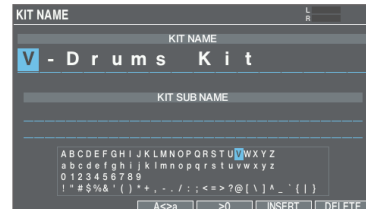
- [F6] (CLOSE) ボタンを押します。
- [KIT] ボタンを押して、KIT 画面に戻ります。

ユーザー・サンプルを割り当てたパッドを叩くと、ユーザー・サンプルが鳴ります。

ドラム・キットの名前を変更する (KIT NAME)

現在選んでいるドラム・キットの名前を変更します。

- [MENU] ボタンを押します。
- カーソル・ボタンで [KIT OPTIONS] → [KIT NAME] を選び、[ENTER] ボタンを押します。
KIT NAME 画面が表示されます。



- 名前を変更します。

キット・ネーム (上段) は 16 文字、サブ・ネーム (下段) は 64 文字まで入力できます。

操作子	説明
カーソル・ボタン	変更する文字にカーソルを合わせます。
ダイヤル	文字を変更します。
[F3] (A<>a) ボタン	大文字／小文字を切り替えます。
[F4] (>0) ボタン	数字を選びます。
[F5] (INSERT) ボタン	カーソル位置に空白を挿入します。
[F6] (DELETE) ボタン	カーソル位置の文字を削除します。

- [KIT] ボタンを押して、KIT 画面に戻ります。

設定する

トリガーの設定

パッドからの信号を V31 が確実に処理できるように、トリガーを設定します。

メモ

ドラム・キット (TD313、TD316、VAD316) をお使いの場合は、工場出荷時にトリガー・バンクの設定がされているため、以下の設定は不要です。

パッドの種類を設定する

トリガー・バンクで使用するパッドの種類 (トリガー・タイプ) を、トリガー・インプットごとに指定します。

トリガー・タイプ

トリガー・タイプは、さまざまなトリガーのパラメーターを、各パッドに適した値に調整し、ひとまとめたものです。各トリガー・インプットで使っているパッドに最適な設定をするために、接続しているパッドの型番 (タイプ) を指定します。

トリガー・バンク

トリガー・バンクは 10 個のトリガーの設定を 1 つにまとめたものです。

メモ

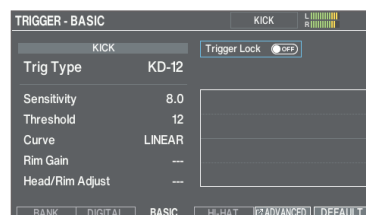
トリガー・バンクについて、詳しくは『リファレンス・マニュアル』(Web) をご覧ください。

パッドの感度を個別に調整する

パッドの感度を調整し、叩く強さと音の大きさのバランスを調節します。

1. [MENU] ボタンを押します。
2. カーソル・ボタンで [SYSTEM] → [TRIGGER] を選び、[ENTER] ボタンを押します。
3. [F3] (BASIC) ボタンを押します。

TRIGGER - BASIC 画面が表示されます。

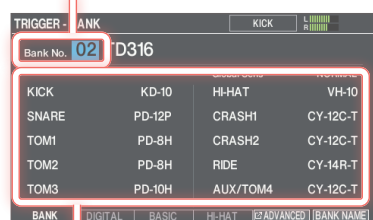


4. 設定するパッドを選びます (P.23)。
5. カーソル・ボタンを押して、[Sensitivity] を選びます。
6. ダイアルで感度を調節します。
→ パッドの感度調節について、詳しくは『リファレンス・マニュアル』(Web) をご覧ください。

1. [MENU] ボタンを押します。
2. カーソル・ボタンで [SYSTEM] → [TRIGGER] を選び、[ENTER] ボタンを押します。
3. [F1] (BANK) ボタンを押します。

TRIGGER - BANK 画面が表示されます。

トリガー・バンク・ナンバー



トリガー・タイプ

4. ダイアルでトリガー・バンクを設定します。

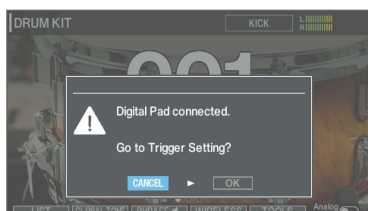
※ デジタル接続対応のパッドが割り当てられているトリガー・インプットは、トリガー・タイプを変更することはできません。
→ トリガーの設定について、詳しくは『リファレンス・マニュアル』(Web) をご覧ください。

デジタル接続対応パッド（別売）の設定をする

DIGITAL TRIGGER IN 端子に、別売りのデジタル接続対応パッドを初めて接続すると、以下の画面が表示されます。

画面に従って、接続したパッドをどのトリガー・インプットに割り当てるか設定します。

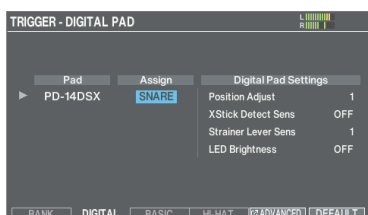
※ TRIGGER INPUT 端子に接続したパッドと同じトリガー・インプットに割り当てると、TRIGGER INPUT 端子に接続したパッドの音は出力されません。



→ パッドの設定について、詳しくは『リファレンス・マニュアル』(Web) をご覧ください。

1. 「OK」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

TRIGGER - DIGITAL PAD 画面が表示されます。



2. カーソル・ボタンで設定するパッドの Assign (アサイン) を選び、ダイヤルで設定します。

パッドを選ぶと、選んだパッドのボタンまたはインジケーターが点滅します。

設定例：

Pad (パッド)	Assign (アサイン)
PD-14DSX, PD-140DS	SNARE
CY-18DR	RIDE
VH-14D	HI-HAT

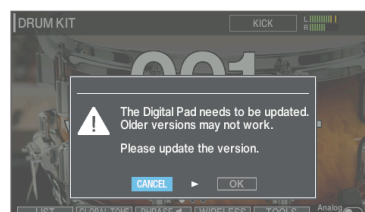
※ 同じアサインを複数設定することはできません。

3. [KIT] ボタンを押して、KIT 画面に戻ります。

バージョンの古いデジタル・パッドを接続すると、以下の画面が表示されます。パッドをアップデートしてください

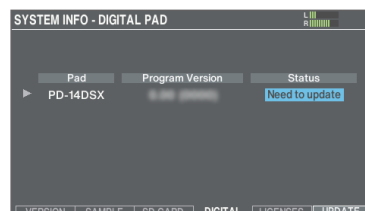
以下の画面が表示されたら、パッドをアップデートしないと V31 で正常に使用できない場合があります。以下の手順に従いパッドをアップデートしてください。

※ パソコンとパッドを接続してアップデートすることもできます。詳しくは、各パッドのサポート・ページをご覧ください。



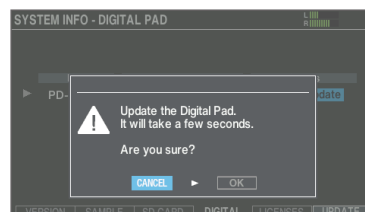
1. 「OK」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

SYSTEM INFO - DIGITAL PAD 画面が表示されます。



2. Need to update にカーソルを合わせ、[F6] (UPDATE) ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは、「CANCEL」を選んで [ENTER] ボタンを押します。

3. 「OK」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

パッドのアップデートが始まります。

「Complete!」と表示され、Status が「OK」になったらアップデート完了です。

※ アップデートには数分かかることがあります。

※ 画面に「Processing...」と表示されている間は、絶対にデジタル・パッドの接続をはずしたり電源を切ったりしないでください。

※ アップデート中にデジタル・パッドを抜いたり、V31 の電源が落ちたりしてアップデートが失敗すると、V31 がデジタル・パッドを認識できなくなる場合があります。対処方法について、詳しくは『リファレンス・マニュアル』(Web) をご覧ください。

4. [KIT] ボタンを押して、KIT 画面に戻ります。

インストゥルメント・エクスパンション／キット・パックの設定をする

Roland Cloud からインストールしたインストゥルメント・エクスパンション（ドラム・キットとインストゥルメントのパッケージ）、キット・パック（ドラム・キットとカスタム・サンプルのパッケージ）を設定します。

→ 設定について、詳しくは『リファレンス・マニュアル』（Web）をご覧ください。

1. [EXPANSION] ボタンを押します。
2. ファンクション・ボタンを押して、設定画面を表示させます。



3. インストゥルメント・エクスパンション／キット・パックの設定を変更します。
4. [KIT] ボタンを押して、KIT 画面に戻ります。

Roland Cloud からドラム・キットやインストゥルメントを取り込む

以下の 2 つの方法で、Roland Cloud からインストゥルメント・エクスパンション（ドラム・キットとインストゥルメントのパッケージ）、キット・パック（ドラム・キットとカスタム・サンプルのパッケージ）を V31 にインストールすることができます。

- スマートフォン・アプリ「Roland Cloud Connect」と V31 を Wi-Fi で接続し、Wi-Fi 経由でインストールする
→ 別紙『Roland Cloud Connect セットアップ・ガイド』をご覧ください。
- パソコン・アプリ「Roland Cloud Manager」からインストゥルメント・エクスパンション／キット・パックを SD カードに保存して、SD カード経由でインストールする
→ 『Roland Cloud ご利用ガイド』（Web）をご覧ください。

データをバックアップする

V31 に記憶されているすべての設定を、SD カードに保存（バックアップ）したり V31 に書き戻したり（ロード）することができます。

※ SD カードにデータをバックアップするときは、あらかじめ SD カードを挿入しておきます（P.4）。

メモ

ドラム・キットごとにバックアップ／ロードすることもできます（P.30）。

SD カードを初期化する

SD カードを初期化（フォーマット）します。

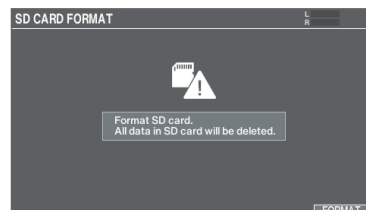
※ 初めて V31 で SD カードを使うときは、SD カードをフォーマットしてください。

注意

SD カードを初期化すると、SD カード内のデータはすべて消去されます。

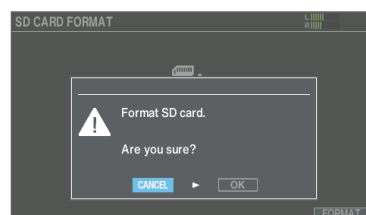
1. SD カードを V31 に挿入します（P.4）。
2. [MENU] ボタンを押します。
3. カーソル・ボタンで「BACKUP」→「FORMAT」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

SD CARD FORMAT 画面が表示されます。



4. [F6] (FORMAT) ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは、「CANCEL」を選んで [ENTER] ボタンを押します。

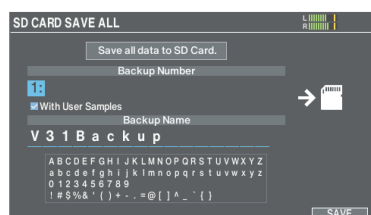
5. 「OK」を選び、[ENTER] ボタンを押します。
SD カードが初期化されます。
6. [ENTER] ボタンを押して、操作を終了します。

SD カードにバックアップする (SAVE)

V31 に記憶されているすべての設定を保存します (最大 99 セット)。

1. SD カードを V31 に挿入します (P.4)。
2. [MENU] ボタンを押します。
3. カーソル・ボタンで「BACKUP」→「SAVE」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

SD CARD SAVE ALL 画面が表示されます。



4. バックアップを設定します。

パラメーターの選択: カーソル・ボタン

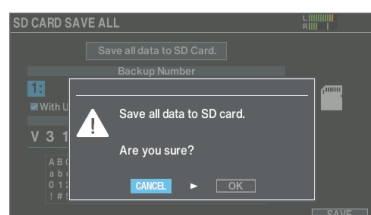
値の選択: ダイヤル

パラメーター	説明
Backup Number	バックアップ番号を選びます。
With User Samples	ユーザー・サンプルをバックアップするか選びます。
Backup Name	バックアップ・データの名前を付けます。

- ※ ユーザー・サンプルもバックアップする場合、ユーザー・サンプルのサイズによっては、保存に数分かかることがあります。
- ※ ユーザー・サンプルをバックアップしない場合、本体内のユーザー・サンプルを削除したり、リナンバーしたりすると、バックアップを読み込んでも、ドラム・キットは正しく再現されません。

5. [F6] (SAVE) ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは、「CANCEL」を選んで [ENTER] ボタンを押します。

6. [OK] を選び、[ENTER] ボタンを押します。
7. [ENTER] ボタンを押して、操作を終了します。

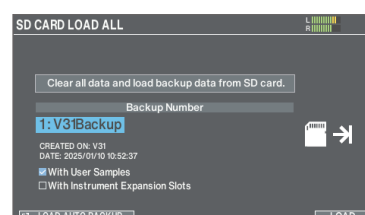
SD カードに設定が保存されます。

バックアップ・データを SD カードから読み込む (LOAD)

SD カードに保存したバックアップ・データを V31 に読み込みます (ロード)。

1. SD カードを V31 に挿入します (P.4)。
2. [MENU] ボタンを押します。
3. カーソル・ボタンで「BACKUP」→「LOAD」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

SD CARD LOAD ALL 画面が表示されます。



4. ロードを設定します。

パラメーターの選択: カーソル・ボタン

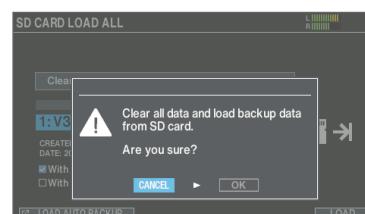
値の選択: ダイヤル

パラメーター	説明
Backup Number	バックアップ番号を選びます。
With User Samples	ユーザー・サンプルをロードするか選びます。
With Instrument Expansion Slots	インストゥルメント・エクспанションをロードするか選びます。 ※ インストゥルメント・エクспанションがラックにインストールされていない場合は、スロットへはロードされません (P.10)。

- ※ ユーザー・サンプルを読み込むと、本体内のユーザー・サンプルはすべて消去されます。また、ユーザー・サンプルのサイズによっては、読み込みに 10 分以上かかることがあります。

5. [F6] (LOAD) ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは、「CANCEL」を選んで [ENTER] ボタンを押します。

6. [OK] を選び、[ENTER] ボタンを押します。
7. [ENTER] ボタンを押して、操作を終了します。

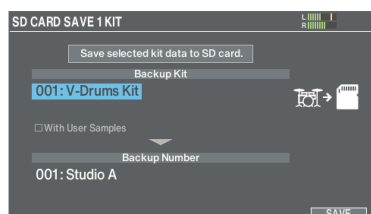
SD カードからバックアップ・データが読み込まれます。

SD カードにドラム・キットをバックアップする (SAVE 1 KIT)

V31 に記憶されているドラム・キット単体の設定を、SD カードにバックアップします (最大 999 個)。

1. SD カードを V31 に挿入します (P.4)。
2. [MENU] ボタンを押します。
3. カーソル・ボタンで「BACKUP」→「SAVE 1 KIT」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

SD CARD SAVE 1 KIT 画面が表示されます。



4. バックアップを設定します。

パラメーターの選択: カーソル・ボタン

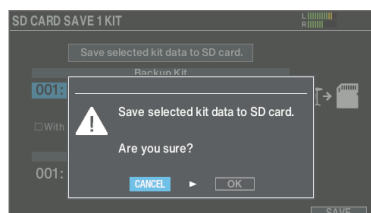
値の選択: ダイアル

パラメーター	説明
Backup Kit	バックアップするドラム・キットを選びます。
With User Samples	ユーザー・サンプルをバックアップするか選びます。
Backup Number	バックアップ番号を選びます。

- ※ ユーザー・サンプルもバックアップする場合、ユーザー・サンプルのサイズによっては、保存に数分かかることがあります。
- ※ ユーザー・サンプルをバックアップしない場合、本体内のユーザー・サンプルを削除したり、リナンバーしたりすると、バックアップを読み込んでも、ドラム・キットは正しく再現されません。

5. [F6] (SAVE) ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは、「CANCEL」を選んで [ENTER] ボタンを押します。

6. [OK] を選び、[ENTER] ボタンを押します。

SD カードにキット・バックアップ・データが保存されます。

7. [ENTER] ボタンを押して、操作を終了します。

キット・バックアップ・データを SD カードから読み込む (LOAD 1 KIT)

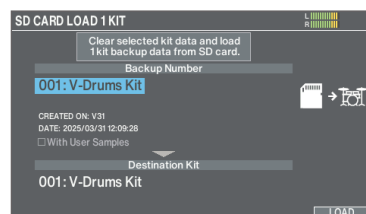
SD カードに保存したキット・バックアップ・データを V31 にロードします。

メモ

V71 や V51 のキット・バックアップ・データをロードすることもできます。詳しくは『リファレンス・マニュアル』(Web) をご覧ください。

1. SD カードを V31 に挿入します (P.4)。
2. [MENU] ボタンを押します。
3. カーソル・ボタンで「BACKUP」→「LOAD 1 KIT」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

SD CARD LOAD 1 KIT 画面が表示されます。



4. ロードを設定します。

パラメーターの選択: カーソル・ボタン

値の選択: ダイアル

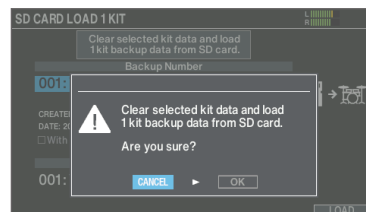
パラメーター	説明
Backup Number	バックアップ番号を選びます。 バックアップを作成した製品名と日時(*1)が表示されます。
With User Samples	ユーザー・サンプルをロードするか選びます。
Destination Kit	ロード先のドラム・キットを選びます。

*1: Wi-Fi 接続時にバックアップしたデータのみ

- ※ ユーザー・サンプルを読み込むと、読み込みに 10 分以上かかることがあります。

5. [F6] (LOAD) ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは、「CANCEL」を選んで [ENTER] ボタンを押します。

6. [OK] を選び、[ENTER] ボタンを押します。

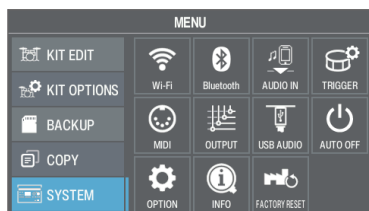
SD カードからバックアップ・データが読み込まれます。

7. [ENTER] ボタンを押して、操作を終了します。

V31 全体の設定をする (SYSTEM)

V31 の出力先の設定やトリガーの設定など、V31 全体で共通の設定をします。

1. **[MENU]** ボタンを押します。
2. カーソル・ボタンで「**SYSTEM**」を選びます。



3. カーソル・ボタンまたはダイヤルで設定したいメニューを選び、**[ENTER]** ボタンを押します。

メニュー	説明
Wi-Fi	V31 を Wi-Fi に接続し、「Roland Cloud Connect」アプリと接続することができます。 → 別紙『Roland Cloud Connect セットアップ・ガイド』をご覧ください。
Bluetooth	Bluetooth の設定をします。
AUDIO IN	MIX IN (STEREO) 端子と Bluetooth オーディオの入力レベルを調節します。
TRIGGER	トリガーの設定をします (P.26)。
MIDI	V31 全体の MIDI 設定をします。
OUTPUT	音の出力先を設定します。
USB AUDIO	USB オーディオを設定します (P.32)。
AUTO OFF	オート・オフの設定を設定します (P.6)。
OPTION	ディスプレイ、キット・フレーズなどの設定をします。
INFO	本体メモリーの残量やシステム・プログラムのバージョンを確認します。
FACTORY RESET	工場出荷時の設定に戻します (P.32)。

4. 選んだメニューに応じて、設定を変更します。

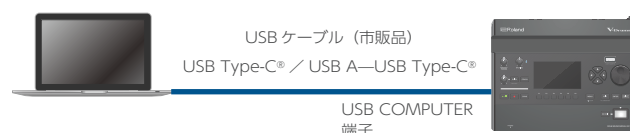
→ 各メニューについて、詳しくは『リファレンス・マニュアル』(Web) をご覧ください。

パソコンやスマートフォンと接続して使う

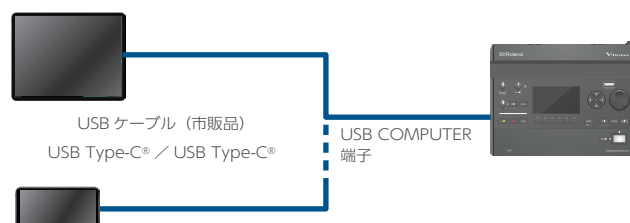
V31 では、パソコンやスマートフォンと接続して以下のことができます。

- パソコン (Windows / Mac) と接続し、DAW へ 30ch のマルチ・トラックでオーディオ録音したり、MIDI 録音したりすることができます (VENDOR)。
- スマートフォン／タブレットと直接オーディオ／MIDI 通信することができます (GENERIC)。

パソコン (Mac / Windows) と接続



iPhone / iPad と接続



※ Lightning コネクタを搭載した iPad / iPhone を接続する場合は、別途 Lightning - USB 3 カメラアダプタをご用意ください。Lightning - USB 3 カメラアダプタと V31 の接続には、USB Type-C® to USB A ケーブル (市販品) を使用してください。

※ 一部の Lightning 端子仕様の Apple 製品と「Lightning - USB カメラアダプタ」を利用した接続で、オーディオにノイズが発生することが確認されています。この症状は、「Lightning - USB 3 カメラアダプタ」を使用すると改善する場合があります。詳細と最新の対応情報は、「V31 サポート情報」をご確認ください。

※ 「Lightning - USB カメラアダプタ」と「Lightning - USB 3 カメラアダプタ」の違いについては、Apple 社の製品情報でご確認ください。

USBドライバーの設定をする

V31 専用 USB ドライバー (VENDOR) と、OS 標準のドライバー (GENERIC) を切り替えます。

1. [MENU] ボタンを押します。
2. カーソル・ボタンで [SYSTEM] → [USB AUDIO] を選び、[ENTER] ボタンを押します。
3. Driver Mode にカーソルを合わせ、ダイヤルで値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
Driver Mode	GENERIC	OS 標準のドライバーを使用します。USB MIDI と USB オーディオ (2ch 録音／再生) が使用できます。
	VENDOR	ローランドが提供している V31 専用のドライバーを使用します。USB MIDI と USB オーディオ (30ch 録音／32ch 再生) が使用できます。

メモ

本体の電源を入れ直すと有効になります。

4. 電源を入れ直します。

メモ

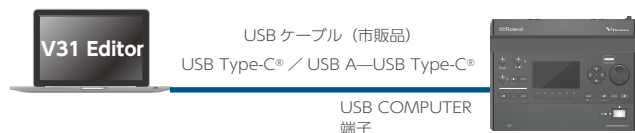
USB ドライバーのダウンロードとインストール手順について、詳しくはローランドのホームページをご覧ください。

<https://www.roland.com/jp/support/>

パソコンでエディター・アプリ [V31 Editor] を使う

エディター・アプリ [V31 Editor] を使うことで、パソコン (Windows / Mac) を使って V31 の音色をエディットすることができます。パソコンの大きな画面で音色をエディットすることができるため便利です。

詳しくは『リファレンス・マニュアル』(Web) をご覧ください。



工場出荷時の設定に戻す

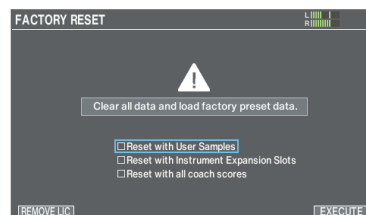
V31 に記憶されている設定値を、工場出荷時の状態に戻します。これをファクトリー・リセットと呼びます。

注意

この操作をすると、V31 にあるデータや設定がすべて失われます。必要なデータや設定は、SD カードに保存してください (P.28)。

1. [MENU] ボタンを押します。
2. カーソル・ボタンで [SYSTEM] → [FACTORY RESET] を選び、[ENTER] ボタンを押します。

FACTORY RESET 画面が表示されます。



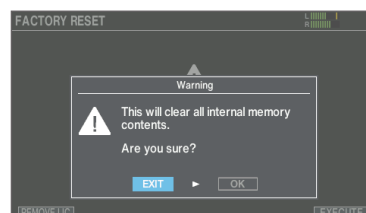
パラメーターの選択: カーソル・ボタン

値の選択: ダイヤル

パラメーター	説明
Reset with User Samples	V31 に取り込んだすべてのユーザー・サンプルを工場出荷時に戻すか選びます。 ※ ユーザー・メモリーのすべてのユーザー・サンプルは、工場出荷時のデータに上書きされます。
Reset with Instrument Expansion Slots	スロットにロードしたインストールメント・エクスパンションを工場出荷時に戻すか選びます (P.10)。
Reset with All Coach Scores	コーチ・モードで記録した得点を消去するか選びます。

3. [F6] (EXECUTE) ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは [EXIT] を選び、[ENTER] ボタンを押します。

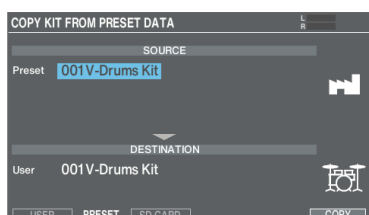
4. [OK] を選び、[ENTER] ボタンを押します。
ファクトリー・リセットが実行されます。
5. [ENTER] ボタンを押して、操作を終了します。
HI-HAT OFFSET CALIBRATION 画面が表示されます。
6. [F6] (ADJUST) ボタンを押して「ハイハットの設定をする」(P.7) の手順 4 に従って、ハイハットの設定をしてください。

ドラム・キットを工場出荷時の設定に戻す

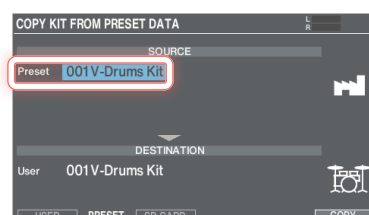
コピー機能を使って、ドラム・キットごとに工場出荷時の設定（プリセット・キット）に戻すことができます。

1. [MENU] ボタンを押します。
2. カーソル・ボタンで「COPY」→「KIT」を選び、[ENTER] ボタンを押します。
COPY 画面が表示されます。

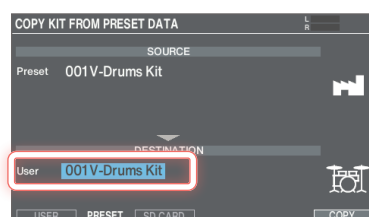
3. [F2] (PRESET) ボタンを押します。
COPY KIT FROM PRESET DATA 画面が表示されます。



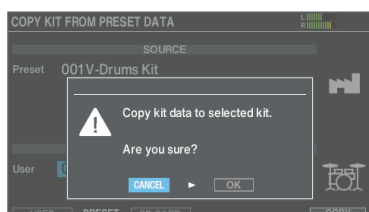
4. プリセット・キットにカーソルを合わせ、ダイヤルで工場出荷時の設定に戻したいキットと同じ番号のプリセット・キットを選びます。



5. ユーザー・ドラム・キットにカーソルを合わせ、ダイヤルでプリセットに戻したいキットを選びます。



6. [F6] (COPY) ボタンを押します。
確認画面が表示されます。



中止するときは、「CANCEL」を選んで [ENTER] ボタンを押します。

7. [OK] を選び、[ENTER] ボタンを押します。
キットのコピーが実行されます。

安全上のご注意

警告

指定のスタンドを使用する

本機の設置には、ローランドが推奨するスタンドを使用してください。詳しくはローランド・ホームページをご覧ください。



不安定な場所に設置しない

本機の設置にスタンドを使用する場合、ぐらつくような場所や傾いた場所に設置せず、安定した水平な場所に設置してください。機器を単独で設置する場合も、同様に安定した水平な場所に設置してください。



スタンドへ設置するときの注意

取扱説明書の指示どおりに設置してください (P.4)。



正しく設置しないと、不安定な状態となって落下や転倒を引き起こし、けがをする恐れがあります。

付属の AC アダプターを AC100V で使用する

AC アダプターは、必ず付属のものを、AC100V の電源で使用してください。



付属の電源コードを使用する

電源コードは、必ず付属のものを使用してください。また、付属の電源コードを他の製品に使用しないでください。



注意

指定のスタンドのみ使用する

本機は当社製のスタンドとのみ、組み合わせて使用できるよう設計されています。他のスタンドと組み合わせて使うと、不安定な状態となって落下や転倒を引き起こし、けがをする恐れがあります。詳しくはローランド・ホームページをご覧ください。



スタンドを使う前に安全を確認する

取扱説明書に記載の注意事項が守られていても、取り扱いによってはスタンドから本機が落下したりスタンドが転倒したりする可能性があります。使用にあたっては事前に安全を確認した上でお使いください。



指などをはさまないように注意する

取り付けパイプ使用時は、指などをはさまないように注意してください。お子様が使用されるときは、大人のかたが監視／指導してください。



小さな部品はお子様の手の届かないところに置く

下記の部品はお子様が悪戯で飲み込んだりすることのないよう手の届かないところへ保管してください。



- 取りはずしが可能な部品
 - ネジ類 (P.4)
 - ワッシャー類
 - ナット類
 - ケーブル・キャップ

使用上のご注意

電源について

- AC アダプターは、インジケーターのある面が上になるように設置してください。AC アダプターをコンセントに接続すると、インジケーターが点灯します。

設置について

- 設置条件（設置面の材質、温度など）によっては、本機のゴム足が設置した台などの表面を変色または変質させることがあります。

修理について

- 修理を依頼されるときは、事前に記憶内容をバックアップするか、メモしておいてください。修理するときには記憶内容の保存に細心の注意を払っておりますが、メモリー部の故障などで記憶内容が復元できない場合もあります。失われた記憶内容の修復に関しましては、補償も含めご容赦願います。

その他の注意について

- 記憶した内容は、機器の故障や誤った操作などによって失われることがあります。失っても困らないように、大切な記憶内容はバックアップするか、メモしておいてください。
- 失われた記憶内容の修復に関しましては、補償を含めご容赦願います。
- ディスプレイを強く押したり、叩いたりしないでください。
- 抵抗入りの接続ケーブルは使用しないでください。

外部メモリーの取り扱い

- 外部メモリーを使うときは次の点に注意してください。また、外部メモリーに付属の注意事項を守ってお使いください。
 - 読み込み中や書き込み中には取りはずさない。
 - 静電気による破損を防ぐため、取り扱う前に身体に帯電している静電気を放電しておく。

電波に関する注意

- 以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。
 - 本製品を分解／改造する
 - 本製品の裏面に貼ってある証明ラベルをはがす
 - 本製品を購入した国以外で使用する
- 本機の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）や特定小電力無線局（免許を要しない無線局）、アマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。
- 本機を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局や特定小電力無線局、アマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 移動体識別用の構内無線局や特定小電力無線局、アマチュア無線局に対して、万一、本機が原因と思われる有害な電波干渉の事例が発生した場合には、電波の発射を停止した上で、混信回避のための処置等（たとえば、パーティションの設置など）について当社サポート窓口にご相談ください。
- その他、発生した問題についてお困りの場合も、当社サポート窓口にご相談ください。
 - ※ 当社サポート窓口への連絡につきましては、取扱説明書などに記載の「お問い合わせの窓口」をご覧ください。
- 認証取得済みの特定無線設備を搭載しています。
- 本機は電気通信事業者（移动通信会社、固定通信会社、インターネット・プロバイダーなど）の通信回線（公衆無線LANを含む）に直接接続することができません。本機をインターネットに接続する場合は、必ずルーターなどを経由して接続してください。

知的財産権について

- 第三者の著作物（音楽作品、映像作品、放送、実演、その他）の一部または全部を、権利者に無断で録音、録画、複製あるいは改変し、配布、販売、貸与、上演、放送などを行うことは法律で禁じられています。
- 第三者の著作権を侵害する恐れのある用途に、本製品を使用しないでください。お客様が本製品を用いて他者の著作権を侵害しても、当社は一切責任を負いません。
- 製品に内蔵、付属されたコンテンツ（音色波形データ、スタイル・データ、伴奏パターン、フレーズ・データ、オーディオ・ループ、画像データなど）の著作権は当社が保有しています。
- 製品に内蔵、付属されたコンテンツ（ただしデモ曲などの楽曲データは除く）を素材として、お客様が新たな作品を制作、演奏、録音、配布をするに関しては、当社の許諾を必要としません。
- 製品に内蔵、付属されたコンテンツを、そのまま、もしくは酷似した形態で取り出し、別の記録媒体に固定して配布したり、コンピューター・ネットワークを通じて公開したりすることはできません。
- SD ロゴ 、SDHC ロゴ  および SDXC ロゴ  は SD-3C、LLC の商標です。
- ASIO は、Steinberg Media Technologies GmbH の商標およびソフトウェアです。
- 本製品には、イーソル株式会社のソフトウェアプラットフォーム「eParts™」が搭載されています。
- Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、ローランドはこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。
- 本製品は、T-Engine フォーラム（www.t-engine.org）の T-License 2.0 に基づき μ T-Kernel ソースコードを利用しています。

- 本製品には、第三者のオープンソースソフトウェアが含まれています。

Copyright © 2009-2018 ARM Limited. All rights reserved.
Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the "License");
You may obtain a copy of the License at
<http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>

Copyright © 2016 Freescale Semiconductor, Inc.
Copyright © 2016-2017 NXP. All rights reserved.
Licensed under the BSD-3-Clause;
You may obtain a copy of the License at
<https://opensource.org/licenses/BSD-3-Clause>

Copyright © 2009-2018 Arm Limited. All rights reserved.
Copyright © 2018 STMicroelectronics. All rights reserved.
Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the "License");
You may obtain a copy of the License at
<http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>

Copyright © 2018 STMicroelectronics. All rights reserved.
This software component is licensed by ST under BSD 3-Clause license, the "License";
You may obtain a copy of the License at
<https://opensource.org/licenses/BSD-3-Clause>

- Roland、V-Drums は、日本およびその他の国におけるローランド株式会社の登録商標または商標です。
- 文中記載の会社名および製品名などは、各社の登録商標または商標です。
- 本書では DSP 技術によってエミュレートされたサウンドを適切に表現するために、各社の会社名および製品名などを使用しています。



お問い合わせの窓口



ホームページをご覧ください

Roland製品

電子楽器製品（電子ピアノ、電子ドラム、シンセサイザーなど）

https://roland.cm/roland_support



プロAV製品（ビデオ・ミキサー、業務用映像音響機器など）

https://roland.cm/proav_support



BOSS製品

https://roland.cm/boss_support



01